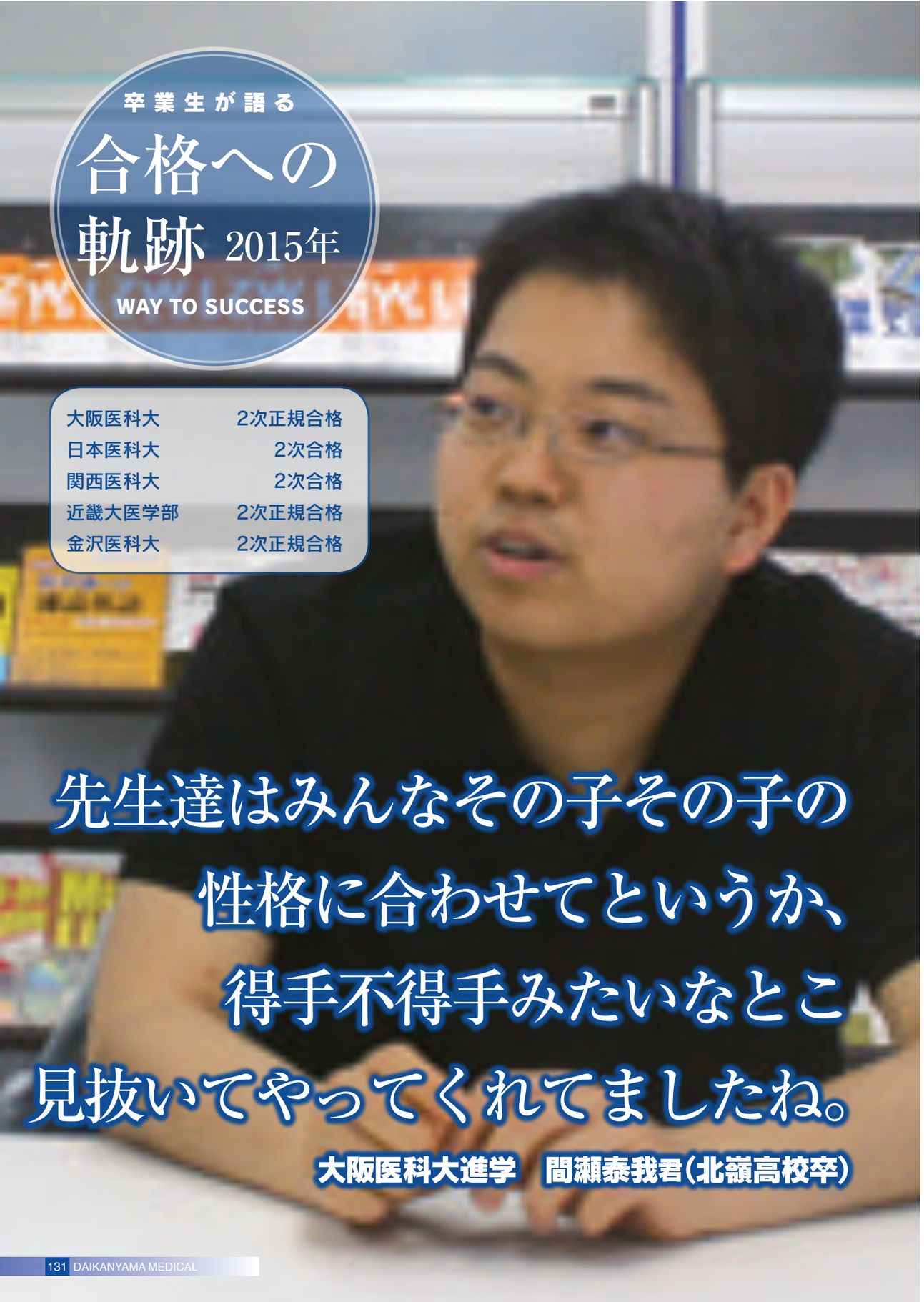


卒業生が語る

# 合格への軌跡 2015年

WAY TO SUCCESS

| | |
|---|---|
| 大阪医科大 | 2次正規合格 |
| 日本医科大 | 2次合格 |
| 関西医科大 | 2次合格 |
| 近畿大医学部 | 2次正規合格 |
| 金沢医科大 | 2次正規合格 |

## 先生達はみんなその子その子の性格に合わせてというか、得手不得手みたいなとこ見抜いてやってくれてましたね。

**大阪医科大進学　間瀬泰我君（北嶺高校卒）**





### 大阪医科大は今年から厳しくなったみたいです。

今年から進級が厳しくなったらしくって、今までは一回生から二回生に上がるときに落ちるのは0か、いても1で、過去に最大でも5で、それが問題になるくらいの緩さだったんですが、今年は13人くらい落ちたんです。倍以上落ちて、けっこう厳しくするから気をつけろよっていうことは言われています。ただ、自分の場合は、**代官山** *MEDICAL* がキツキツだったんで、けっこう緩いっていうか、授業とかも普通にあってないようなものっていうか、90分の授業を30分くらいで終わるっていうことも普通にあるので、**代官山** *MEDICAL* の授業とは全く違います（笑）。部活は、入りたいのが全くなくて、柔道部が1人っていうのはオープンキャンパスの時に知っていたんですけど、その1人が5回生で忙しくなっちゃって、部活とかに行けない状態で廃部になったらしくて。だから、たまたま俺らの学年でオリエンテーション合宿ってのがあって、俺が「柔道部どうかなぁ」って話しかけまくったら、3人ぐらい集まって、新たに作るっていう雰囲気です。

### 先生達はみんなその子その子の性格に合わせてというか、得手不得手みたいなとこ見抜いてやってくれてましたね。

石井先生は、すっげぇ思ってたのが、優しいじゃないですか。すごく優しく語りかけてくれるのに、怒鳴るタイプじゃないのに、でも何故かみんなピシャッとするっていうか。それが、なんか、すごい力あるなって。棒とか持って怒鳴り散らす先生の前だと静になるの分かるんですが、石井先生はそんなタイプじゃ全然ないのに、全く寝る人もいないですし、自分も緊張しますし。あと、当てまくって、当ててくれるのがデカいです。しかも、答えられないと嫌だなっていうのが他の先生以上にあったので、答えるために、これはちょっと反省もありますけど、授業のために予習していたのかもしれないです。うかるために予習とかじゃなくって、ただ質問に答えるために予習・復習してたってのは否めないです。ただ、それが入試に直結したと言えばしたから…その緊張感がすごかったです。

しかも、先生、言うことはキッパリ言ってくれて、それが凄いありがたくって。俺、直前期に…これは載せないで欲しいんですけど、直前期に「いやあ、僕、慈恵どうですかねぇ」って聞いたら、「いやあ、無理でしょ」って。それがある意味スカッときて、「じゃあ、日医はどうですかねぇ」って聞いたら、「日医くらいなら大丈夫じゃないの？」って言ってくれるから、そういうのは、本当にバシッと、信用できる。

あと、自分、米澤先生が凄い良くて。個別指導で、勉強の仕方が凄くて。けっこう斬新だったんですけど、例えば、一浪目で化学が全然できてない時に、京都府立医科とか京都大の医学部とか、その辺の鬼畜な化学が出るような問題をいきなりやらされて、それをめっちゃ予習してこいって言って。その一問を一コマかけて解説してくれて、それを繰り返し復習した後に、例えば自分がヘンリーの法則が苦手ですって言ったら、その説明もできないのに、ほんとに基本問題も解けない状態なのに、いきなり京都府立のめっちゃ難しい問題をやらされて、それがテーマの。「は？」ってなって、ほぼ予習とかできずに、参考書とか見ても（1）くらいしかできないで、それで米澤先生にもってきて、授業受けて、それで覚えるっていうか、解法を再現できるように復習してこいって言われて、それから、ヘンリーの法則のめっちゃ簡単な問題を、めっちゃもらって。だから、めっちゃ難しい問題をやってから、簡単な問題をバァ－ッやると、凄い定着するって言われて。それがめっちゃ勉強法いいなって。

生物は、大森先生が出している、大森茂の論述問題っていう今は絶版している本を取り寄せて、とにかく50字論述、100字論述の二パターンで説明してあって、100字はいらないから50字を写経しろと言われ、ひたすら書いてました。大学に合わせた指導方法をしていただいたのもよかったです。生物は大森先生に頼りっぱなしでしたね。石井先生に、寝ることは次の日の予習だって言われて、なるほどなと。一浪目は生物とか覚えきれてなくて、例えば東京医科は知識問題がでるので、試験前に寝ないで勉強をしていましたが、その時に覚えた箇所はでないで、頭がボーっとした状態で試験を受けていました、それが一浪目の敗因だと思っています。二浪目は、石井先生の言葉を信じて、予習というのは頭をすっきりさせて、初めての問題でも気持ち良く取り組める状態が大事だと痛感しました。ですので、二浪目は何があっても寝ていたし、昼休みも爆睡していました。夜ずっと勉強せず、生活習慣も崩れずよかったです。

### マンスリーの活用法は、自分が準備整ってなくても、点数は取らなきゃいけない状態にするように努める、っていうか。

マンスリーテストは、二浪目から境地が開けてきて。ちょっと大変すぎることを言い訳にしてたんですよ、一浪目は。だから、正直、自分の中で甘えが大きかったですね、振り返ると。まだ、自分は全部終わってないからできなくてもいいんだ、とか自分の中に言い訳やらズルさが出てきて、なんでも先送りで…、それが、たぶん入試の失敗で。だから、たぶん、勉強が出来るようになってくると、二次試験の日程とかも入るようになるので、自分が実際経験したことで、一番きつかったのが、東京で関西医科の一次が終わった後、兵庫県まで行って兵庫医大の二次を受け、そっから兵庫県から帰ってきて日本医科の一次を受けて、さらに東海を次の日受け、そのあとまた新幹線で金沢に行ったんですよ。さすがに次の日の授業はきつかったので休みましたけど。そういうのが想定されるから、だって、本命の日医の前に、兵庫医科のために小論の勉強しないといけないじゃないですか。時間が無いじゃないですか、ほんとは化学やりたいにもかかわらず。たぶん、マンスリーテストの前も同じで、一限目英語で、次の日英語のマンツーマンが入ってたらブルーになってたんですよ。でも、英語があって、こっちに数学が控えてるから数学の勉強したいのに、英語やる。そういうのは受験でもあるから、時間の無い中でも、結果を出せるっていう練習台として使おうかなっていうように思いだして、それがなんか、良かったっていうか。マンスリーテストって9回あるじゃないですか。受験校も9校くらいで、本番に対する意識が高まるというか、メンタル的にも。思った通りのテンポで本番の試験は進まない。時間がない！ない！ない！って言い訳にしてたけど、一浪目は。時間が無かったから出来なくても良かった。でも、不完全なままでも試験会場には行かないといけないし、自分が準備整ってなくても、点数は取らなきゃいけない状態にしなきゃって。そういう練習を9回できるから、ありがたい。マンスリーの前までキツキツに授業入ってるシステム、俺は好き。練習になるから。それはDPというクラス変動がない立場だったから言えることかもしれないけど。クラス上がりたいっていう人にとっては、いやぁ理科したいのになんで数学の授業なんだよ…って思ってる人はいると思うけど、やっぱり入試のことを考えたら、そういうシチュエーションに早い段階で触れられるのはありがたいと思います。マンスリーは二浪目はそういう感じで活用してました。

### 浪人が決まって北海道から東京に来て、いろんな大手の予備校を見て回りました。

浪人が決まって北海道から東京に来て、いろんな大手の予備校を見て回りました。親は大手予備校を勧めてきましたが、僕はしっかりと学びたかったので、医系予備校を探しました。**代官山**には飛び込みで対応していただきまして、石井先生の話にすごく興味を抱きました。その話を両親に話して、後日両親も含めて再度お話いただいて、両親も、“ここなら”と納得したようです。すごい情報を持っていて、生徒一人一人をしっかり見ているなと感じましたね。ここでならさらなる成長が望め、医学部に合格できるのではないかと思いました。面談を受けた瞬間、ここに決めました。母親は**代官山**にお任せだったです。でも、よかった時は納得してましたが、悪かった時は“えーっ”と言って不満そうでした。河合の模試で偏差値がめっちゃあがっていた時はびっくりしてましたね。現役の時、全部E判定だったのに、東京医科B判定でてたのでびっくりしてましたね。また、受験の時は地方の大学を受け飛び回っていて、大変だったので、母親には大変助けられました。たぶん一人だと潰れていたと思います。周りの人にも助けられました。玄徳君は、僕がなかなか合格がもらえず、やっと金沢大学の一次に受かった時はすごく喜んでくれました。金沢合格したら他の大学もとんとん拍子でした。

**代官山**は先生と生徒の距離が近くて、先生の面倒見がよかったです。黙っていてもやることを与えてくれたので、他の予備校では未だに合格できていなかったと思います。また、先生たちは全体をよく把握していると思いました、生徒のテストの結果などを気にかけてくれていましたし。

先生との距離が近い分、しっかり対応してくれていました。先生方から声掛けしてくれる仲になり、大手予備校では考えられない環境で勉強していてよかったなと思いました。あと質問で一番お世話になったのは生物だと金谷先生が一番多かったですね。節田先生、小林先生、栗原先生にも聞いていました。あと、石井先生です。結構、いろんな先生に聞いていました。一浪目は、秋山（秋山真哉君：東京医科大進学）や荒巻（荒巻佳祐君：愛知医科大進学）としゃべることが楽しくて。二浪目は龍野さん（龍野暁世さん：東京女子医科大進学）とか佐藤遼（佐藤遼君：杏林大医学部進学）とか、須長とかと話すのが楽しかったです。話すことが気晴らしになっていました。カラオケとかボウリングには全然行ってないですし、ジョナサンにもみんなで行ってないですね（笑）。

### 代官山 *MEDICAL* の卒業生の先輩方によくしてもらってます。

大学はほんと楽しいです。部活はハンドボール部とダイビング部とジャズ研を兼部してます。今年代官山から8名進学したので、面接時も、今でも代官山生多くない？って教授から言われます。**代官山 *MEDICAL*** の卒業生の先輩方によくしてもらって上の学年にも知り合いが増えました。先輩の丹治さん（丹治芳明君：東京慈恵医科大学5年）はチャラチャラなんですけど色々話聞くと凄い真面目です（笑）。学校でも丹治さんの友人から『自分より先に図書館にいて帰りも自分より遅い』って言われて、そういうの目指していけたらなって思います。姉（鈴佳）も慈恵ですけどやりやすいですよ。僕が騒ぐんですけど姉が中和してくれるというか、感謝しなきゃですね（笑）。

### 浪人で手ごたえを感じた。

勉強してて、手ごたえっていうか、授業の理解度と予習の速度が上がって、これは受かるなって思いました。過去問も簡単なものだと満点とか、現役の時はそんな事なかったんで浪人で学力上がったと感じました。現役の時、本科生を見て遊んでる人は遊んでるし、勉強してる人は部屋から出てこないし、ピンキリですよね。自分は本科になって最初から一番上のクラスにいれたので、しかも周りも自由な人たちだから誰かとつるんで時間無駄にする事もなく真面目で、その点良かったと思います。浪人で辛かったことは、しいて言えば朝早く来なきゃいけないところ、朝苦手だったのでそれだけですね。生活も楽しくて、先生方が興味をそそるような授業をしてくださったので知識が増えていくのが楽しかったです。過去問解いて周りと競い合う勉強も良かったです。」

### 自分より頭良い人の勉強法を真似しました。

自分より頭良い人の勉強法を真似しました。例えば数学だと現役までは解答を丸々覚えてそれを当てはめて問題解こうとしてたけど、それだと時間内に終わらないし難しい問題に太刀打ちできない。それから玄ちゃん（斉藤玄徳君：東京慈恵医科大学進学）の論理的に答えが出るまで考えるっていう解き方を真似したらそれで数学の成績が結構伸びたので、ちょっと感謝してます。予習の仕方を見せてもらって考え方柔軟だなぁって毎回見てたので。型にはまって勉強してると伸びの限界があると思う。

### マンツーマンでノートまでチェックしてもらった。

啓寿先生のマンツーマンが一番好きでした。考える勉強、自分で解答を作っていくところから啓寿先生をとって新しい勉強法にあった授業。僕はアプローチの方法より考え方を教えてもらう方が嬉しかった

です。体積、面積はその方法じゃないと全然解けないと思うので、啓寿先生の勉強法が自分の数学をのばしてくれました。薄先生は絶対取らなきゃいけない問題を確実に早く解ける方法を教えてくれましたね。授業は楽しませるプロでした。僕を引き上げようと厳しくしてくれて、それが悔しくて勉強してたのでそれも感謝しています。

### 化学と数学が勝因だった。

受験本番の慈恵は物理は散々でした。大問1は基礎で、2～3が難しくて無理でした。化学は8～9割出来て数学はあっても2ミスかな。小論テーマは「鹿」でしたね。北里は特待2種でした。化学は現役時のノートで知識だけ忘れないように復習してました。物理は名門の森をやり込んで、難しい問題に慣れるために難系を3周ずつやりました。

### 技術もありつつ面白い医者になれればなと思っています。

将来は、話しやすい医者を目指してます。親近感のある医者なら何でも話しかけやすいと思うので、技術もありつつ面白い医者になれればなと思っています。

卒業生が語る

# 合格への軌跡 2015年

WAY TO SUCCESS

| | |
|---|---|
| 埼玉医科大後期 | 2次正規合格 |
| 金沢医科大 | 2次合格 |

## 高齢者医療に携われる医師を目指したいです。

**埼玉医科大学進学　辻野恵さん（聖心女子学院高校卒）**

## これからの高齢化社会で、高齢者医療に携わりたい。

将来的には高齢者医療に携わりたくって、それは祖父が若年性の認知症を患わっているっていうこともあるんですけれども、これから高齢化社会で認知症の患者さんが今以上に増えるということで、それでも今の現状としては治療薬とか原因とかも分かっていない状況で、私は臨床医としてその患者さんの認知症の患者さんの治療を含め、治療薬の研究とかも携わっていきたいと思っていて、自分自身に認知症の患者さんがいるということで、患者さんだけじゃなくて、家族の苦しみを共感できる部分も少しはあると思うので、そういうとこを生かしつつ、患者さんだけじゃなくて家族の方にも、精神的苦痛とか、身体的苦痛を和らげられるような、そういうコミュニケーション能力もつけていけるような医者になりたいと思っています。キャンパスライフは、今年同級生の5人ともまあ、楽しくやっています(笑)。(今年**代官山** *MEDICAL* から進学した、小倉朋之君、宮田柾秀君、太田陽一郎君、沼賀沙紀さん)

## 代官山に入ったとき、今年で絶対決めてやろうと考えていました

初めのクラス分けでA3で、正直すっごいショックで、このままで大丈夫なのかなと思って、今まで一年間やってきたことが否定された感じですごい悔しくって、返されたときっていうか、A3と決まった時、ちょっと面接室で泣いちゃって、伊藤さんは大丈夫だよって言ってくださって、その時石井先生に、夏までにM3一色にしろって言われて。英語と化学だけM3で受けさせてもらっていて、他の数学と生物だけ下のクラスのA1だったのでそこから気持ちが奮い立って、本当に勉強するようになりました。一浪目は一次どこも受かってなくて、2浪目の初めごろずっと、気持ちがだるいなーと感じていましたが、2回目のマンスリーの後は、よしっ、やってやろう！ってなって頑張った結果、夏前にM3に上がれました。A3の時期が結構きつかったと思います。

## 授業中、先生に当てられるのが結構、好きでした。

ちょっとマニアックな話なんですけれど、石井先生の授業の時に当てるじゃないですか？で、自分、当たって答えられると嬉しいのですけれど、他の人が当たった時も自分自身で答えているんですよ。当たった人が間違えて、自分の答えが当たった時はめっちゃ嬉しかったです。それに毎回楽しみを覚えていました。それと、アッ忘れちゃいましたけど、結構色々あったんですけど…、忘れちゃったなー…とりあず石井先生の授業の最初の10分くらいのお話は結構胸に響いたし、たまにガツンと言われて、目が覚めた時も

あったし、それを具体的になんて言われたか覚えてないんですけれども。あっ、そうだ、マンスリー返された時とかに一人一人に言う時があって、その時に言われた。このままだとクラスやばいよ、みたいな。M3に上がってもまたA3戻りだねーって冗談っぽく言われたりして(笑)。

## 石井先生には本当にお世話になりました。

石井先生に本当にお世話になったなと思って。うちの母親は私のことが本当に心配だったみたいです。一浪目は一次にどこも受からなかった状況だったので。彼女も精神的にやられていたんですけれども、石井先生に、今年は大丈夫！って言ってくださったので、。母親は今年で受験終わらせたかったので、歯学部を受けさせたいっと言っていたのですが、歯学部なんて受けなくても大丈夫だよとフォローしてくださって、それは励みになりました。母親が家でぐちぐち言ってくるので、でも先生がそれを止めて下さいました。夏の三者面談とかありましたよね、模試は右肩上がりでいいんじゃないって感じだったんですけれども、生物の偏差値があんまりよくなくて、生物マンツー取って弱点補強していこうかなどアドバイスをいただきました。マイナスのことは言われなかったですね。正直、嬉しい反面、大丈夫なのかなって思いました。本当に先生の言っていることは合っているのかなって疑ってました。でも、受かってから、先生のおっしゃっていたことは合っていたんだなと納得しました。

## 2浪目は全然緊張しなかったですね。それぐらいやったんだって、メンタルが強くなった気がしますね。





新宿の医学部専門塾での1浪目は、得意の科目を伸ばすっていう、自己流ですごい勉強しちゃってだから数学とか生物とかはできないからもういいや、ってなって化学と英語を伸ばそうとしていました。先生に言われても我流でやっていたんですけれども、こっちきてからは毎日4科目やれと言われて、しっかりやったからムラがなくなったし、結構計画的に勉強することが日課になった。それこそ、いつも配られる日程表みたいなものがあるじゃないですか。時間割表？私はあれを10枚くらいコピーして、それをノートに貼って、1週間分の計画を立てて、それを目安に1日4教科勉強できるし、ムラが無くちゃんとできました。
精神面から言うと、1浪目の時は甘えがあって、もう最後とか医学部じゃなくてもどこでもいいやってなっちゃったんですけれども、こっちきてからやっぱ石井先生のお話などを聞いて、医学部に行きたいって、なりました。医学部に行きたいっていう意識が強くなりました。1浪目の時は結構メンタルが弱くて、テストや模試の点数が悪いと、すぐ落ち込んでそこから立ち上がろうとせず、そのまま負のスパイラルに陥っていくって感じだったんですけれども、こっちに来てからは先生方が色々と相談にのってくださったので、だから、模試とかマンスリーとかが悪くても、落ち込むのは一瞬で切り換えられたし、受験直前の時とかも、相談できて気持ち的にも楽だった気がします。あとは、直前期は、受験期もですけれど、なぜか緊張していたんですけれど、去年は全然緊張しなかったですね。それぐらいやったんだって、メンタルが強くなった気がしますね。

## それぞれの科目の弱点をそれぞれに補強できた。

弱点補強としてマンツーマンを取ってましたね。数学だったら、一番最初のA3クラスの時の五十嵐先生とか、M3の時は薄先生の授業ですね。単科では、薄先生のがすごいよかったなと思います。英語は、もちろん石井先生の授業がよかったと思いますし、あとは、うーん、栗原先生とかよかったと思います。栗原先生はマンツーも取っていたので。生物は、赤松先生も金谷先生も大森先生もやっていたんですけれど、金谷先生は基礎からやってくださる感じで、大森先生は基礎よりちょっと上の応用レベルや実験問題をやってくださって、緒方先生は基礎と応用の間の補充みたいなことをやってくださるから、結構オールマイティで生物を制覇できたかなって感じがします。苦手だったんので、その分よかったなって思います。
どの先生も話しやすくて、質問もしやすかったですね。下にいけば誰かしら先生がいらっしゃるので。特に五十嵐先生とかは、顔見ればどうとか、ツジノッティーのためにクイズ用意してきたよ、みたいに先生から気軽に声をかけてくれるので話やすかったですね。講師室って言っても、壁とかもなくて話やすかったですね。

## 受験期は、1週間に1校は1次を受かろうと頑張った。

私は受験中に目標を立てて、1週間に5校ずつ受験があって、1週間に1校は1次を受かろうと頑張りました。例えば、初めの週は金沢受かって、次の週は東海受かって、次の週は埼玉受かってみたいな目標を立てました。結果として目標は叶ったんですけれど、でも初めの方、埼玉の後期まで補欠を待ってる状態で、ずっとネットの掲示板で何番回ってきたってずっとチェックして、早く回ってこないかなって思っていたんですけれど、やっぱりそこで諦めるんじゃなくて、前期の復習してたし、前の受験の時できなかった分野とかを見直したりして、諦めなかったですね。それが大きかったなって思っています。後期ってどれだけ我慢強くいられたかって重要だと思うので、前期で受かればいいんですけれど、いかに諦めずにいられるかがポイントだと思います。最後の試験までちゃんと準備しておくことが、あの時しっかりやっておけばよかった、と後悔が残るよりはよいと思います。実際、金沢が回ってきたのは3月23日だし、埼玉なかったらたぶんどこにも行くところがなかったので、それはすごい大きかったと思います。

卒業生が語る

# 合格への軌跡 2015年

WAY TO SUCCESS

東邦大医学部　2次合格

## 最後は執念だな、って思いました。

東邦大学医学部進学　篠塚 織香さん（成城学園高校卒）





### 勉強方法やライフスタイルも全部変わりましたね。先生に会いに来るのが楽しかった。

3浪目になって**代官山** *MEDICAL* に来たんですけど、2浪目までは他の予備校に行っていました。そこの出欠は先生が取っていたのでゆるいっちゃゆるい環境でした。ここへ来て勉強方法やライフスタイルも全部変わりましたね。先生に会いに来るのが楽しかった。先生みんな優しくて、一人一人に親身になって答えてくれて。6月くらいまで気後れしてて友達も全然いなくて一人でいたんですけど。質問に並ぶ間に友達も増えて。授業もやったことある問題で「悔しい、解けなかった」とか思えるし、マンスリーテストで貼り出されると「あの人には勝ちたい」とか「このくらいのランクに載りたいな」とか思えるし、とにかく楽しかったです。朝は8:00くらいに登校して、朝自習室から物音すると「もう人がいる、頑張んなきゃ」って思って「朝できる事って何だろう」とか考えたりしていました。

最初は出来ないことが授業で発覚したので、やんなきゃいけないことを付箋に書いて、やったこととか分かるように形に残して、具体化って大事ですね。ほわーんとしてて実態がなかったんですけど、出来なかった問題も書き起こして机に貼っておけば「やんなきゃ」ってなるし、教科とか関係なく、色もかぶっていいから貼ってたり。きっかけはよく覚えてないですけど夏前からその習慣が身についてました。派手な色の付箋にしたら目につくかな～とか。

### 浪人生って、身分証明書も保険証くらいしか持ってなかったので、ランキングに名前が載ることで存在が証明されるみたいな…。

最初の4月5月の頃が一番つらかった。4月は生物だけちょっとランキング載って、でも総合には足らないし、3浪目で A3クラスで、多浪のわりに勉強が全然できなくて、、同じクラスのメンバーが結構ランキング載ってる中で自分が載らなくて、手ごたえもあまり感じられなかったんで不安でした。でも夏に英語が凄い出来た時があって、石井先生に褒められて「次も頑張ろう！」って思えて、そのあとから総合ランキングに名前が載り始めて、その時期から、とにかくランキングに名前が載ることを目標とするようになりました。とにかく名前が載りたかった。浪人生って居場所が無いじゃないですか。身分証明書も保険証くらいしか持ってなかったので、ランキングに名前が載ることで存在が証明されるみたいな。そのくらいの気持ちでかけてました。私はプレッシャーかけられた方がよかったと思います、マイペースなので。その点、**代官山**にはいいライバルがいっぱいいるので刺激になりました。上のクラスの人達を見てて、それが当たり前なんだと感じることが出来ました。**代官山**は私にはすごく合っていた予備校でした。みんなはマンスリーを嫌がっていましたが、私は月に一回くらいこういうのがないとやる気が起きなくてダメだと思いました。

### 先生方からいろいろな具体的アドバイスをもらいました。

自信があったのは英語、次に生物。数学はずっとダメでした。苦手科目はひたすら書こうと思いながら書いていました。書いて形に残しておけば「ここまでやったんだ」って思えて、数学の写経みたいな感じですね。問題文はテキストそのまま、分厚いノート買ってきてテキストをコピーして、問題文を貼って、その下に答え書いてっていうのを一ページごとにまとめて、答えを隠して解いてって言うのをやってて、終わったのは秋ぐらいなんですけど、それを1学期のスタンダードの教科書でずっとやってました。「これだけやったぞ」って安心したかった。2学期のテキストに入った段階で緒方先生に「これ試験会場に持っていけるようにたくさん書き込んで、資料集とかも貼って、持っていきな」「形に残しておくのは最後自身にもなるよ」って、やっていることは間違ってなかったんだなっておもった。なのでそれを直前までやってました。

予習がへなちょこだったので復習重視でやってました。数学と化学が厳しかったですね。英語は出来るっていう自負があったので、石井先生の授業とか当てられても答えられるようにしてました。人が見ている前で間違えたくないので。石井先生の授業は直前まで緊張して受けていた記憶があります。先輩の話とかしてくれて、それを聞くと背筋が伸びる感じがして、あと先輩の話するときは石井先生楽しそうなんですよ。石井先生にこんな風に話してもらえる人になりたいな～って思ってました。先輩の話は聞くとモチベーション上がりますね。先生の話は具体的な数字だったりエピソード持って来てくれるんで、それを聞いて自分と違うから焦ったりして、授業後はちょっと違った自分になれて、モチベーションも上がってました。

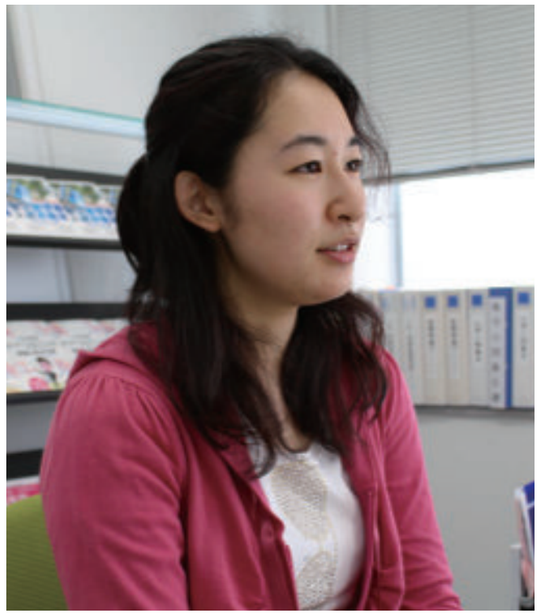
### 先生にやることを全部お任せしていました。

数学が全然定着できなくて、ノートも埋まってるのに全然定着できなくて、そりゃあもうやりまくるしかなかったです。何周とかじゃなくて、「この問題を解き続ける！」「この問題は覚えた！」とかやっていくしかない、って感じで。あと付箋大好き人間なんで色とりどりの付箋を買って来て貼って、小さいノートととかにも欠いて、とにかく手を動かすしかないとおもってた。あとそこらじゅうに付箋貼って、自習室の机が結構カラフルになってた（笑）。で、9月くらいから試験会場に持っていくものっていうのを考え始めて、試験会場に持っていくものをいかに軽くできるか、各教科ノート1冊にしたくて、だからそれまでに「この問題まだ覚えてなかったら受験期の

自分の邪魔になる」って思って、頑張って覚えようとしました。現役のときとか滅茶苦茶資料持ち歩いてたんで、あれは重かったです。あれは結構負担になった。あと資料がいっぱいあると、どれを見るかって焦っちゃうので、覚えるしかない！って。入試直前の自分が可哀想じゃないようにしました。
化学は三上先生のマンツー取ってたんで1年間お世話になりました。直前期とかに「どうしよー」とかいってたら「やることやれ」って言われて追い返されたりして「まずはやんなさい！」って。化学の三上先生の授業は適度に発破かけられて、自分にはそれが合ってました。適度に笑いもあって「できないの～？」って聞かれて「できます！」みたいな。
生物は夏ごろから緒方先生に教わってて、列に並んでました。緒方先生はどんなに並んでいても丁寧に答えてくれました。数学は薄先生に最初は5月か6月くらいに「ほんとに数学ダメなんですけどどうしましょー」って漠然と相談してて、「自分のペースでいいから」ってプリントくれて、あとは直前の単科でお世話になって。9月からの入試問題の講座でついていくのに必死だったんですけど、質問に通い詰め、課題プリントが分からないと泣きつき、「ここはー」ってあのオレンジのペンで教えてもらって（笑）。その時のノートと、直前期の大学別単科のノートだけ数学は試験会場に持っていきました。あとは最初の頃五十嵐先生にも補助プリント貰ってて、五十嵐先生はすごく丁寧に整数から教えてもらいました。薄先生は「ここができれば！」ってベクトルの神様みたいな感じで、「パターン化すればいいんだよ」って言う風に教えてもらって。数学苦手だったんですけど、全部の授業が好きでした。五十嵐先生は1からやさしく。薄先生は「ここっ！」って感じで。
英語は朝岡先生でした。朝岡先生もたくさんプリントくれて、授業で細かい所を教えてもらいました。構文とかも絵で教えてくれたりして、前置詞とかもやってくれて、「知識深まるな～」「全然気づいてなかったわ」って感じました。マンツーは全体的に過去問じゃない普通の問題を先生からもらって、言われるがままやってました。完全に先生にお任せしていました。自分で選ぶより先生に選んでもらった方がいいです。

### 東邦の二次面接って思っていたよりタフでした。

最初は4人の集団面接でグラフを与えられて議論していくんですけど、問題点と解決策を挙げなさいって言われて。その次に4つの部屋に分かれて、一つ目の部屋は笑顔の女性がいて、8コマ漫画を使って、この登場人物はこの時どう思ったか？その根拠は何コマ目と何コマ目にあるか？っていうのを聞かれて、次の部屋は普通の面接で石井先生の対策授業でやってたから結構手ごたえあって、次の3部屋目がすごかった。山田太郎さんっていうおじいさんが面接官の隣に座ってて、紙に問題文がかかれてて。内容は「このお爺さんの奥さんが老人ホームに入ります。手順を説明してあげなさい。」って、例えば市役所に届け出を出す。書類を受け取る。って説明するんですけど、山田んさんは「え？さっきのってなんだっけ？」って聞き返してくるんですよ。で「時間は関係ないな」って思って、持ち時間2分しかないから「え？」って聞かれたらとりあえず丁寧にゆっくり答えようって心がけて受けました。入学後のフレッシュマンキャンプで、副医学部長の先生がいらっしゃって「僕その時の山田太郎やってたんだよ」って、ネタ晴らしされて、結局「山田太郎さん」は20人くらいいたらしくて、私はまだ自分を担当された山田太郎さんに出会えてないんですけどね。
最後の4部屋目は、厳つい男性がいて、結構長めの問題文が出て「銀行のお話で融資するかしないか」っていう問題だったかな、条件付けも結構あって。なかなか難しかったです。
集団面接から面接4連続、しかも3部屋目の山田太郎さんで結構動揺して、4部屋目で失敗して、答えられなかったときや、時間が余った時に聞かれる質問をされて「板挟みってどういうことだと思う」とか。「そういう経験ある？」とか。ここでの2次対策授業受けてなければもっと動揺してたと思う。
7大学くらい受験したんですけど、回を増すごとに手ごたえや、ここは出来るべきだったとか分かるようになってきました。でも最後は執念だなって思いました。石井先生の授業でも「最後の最後は執念だから」って言われていて、私にはいろいろ足りない所はあるけど、それしかないなって思って、その言葉を信じて受け続けました。



### 親身に話のできる先生達ばかりだから、近さを感じてました。

英語を好きになれたのは石井先生をはじめとした先生方の授業のおかげかな。先生とは波長が合ったというか、長文とか知識背景まで説明してくれて、教え方が合理的というか理路整然としていて、腑に落ちたなって言う風に自分の中で感じています。あの人いろいろ知ってて凄いんですよ。勉強以外でも相談に乗ってもらったり。おかげで2年目はそんな英語を重点的にやって英語が好きになって、語学全体が好きになれました。

### 2年目は勉強の仕方も精神面も大きく変わりました。

1年目は、数学でいうと解法の多さに面白さを感じて、生物で言うと考察の難しい問題に面白さを感じ明け暮れてました。化学も難しい問題が好きで夢中でした。でも先生たちに散々「簡単な問題やれ！」って言われてた。特に薄先生からもすごく言われてましたけど、難しい問題にチャレンジすることが楽しくて…。で、結果失敗して気づいた感じで、2年目は基礎だけ。難しい考察をやったのは試験前くらいですね。

### 1年目の経験もあって精神的に強くなれた気がします。

数学は元々苦手で、結局どうやっても数学だけ苦手から脱せずでした…。でも授業はすごく楽しかった。チャートとかやろうかなとも思いましたがテキスト以外手を出さなかった。ほんとテキストだけやってました。でも意外と復習も完璧に終われていなくて。後期のテキストが難しくて、全然終わらなかったです。
他を排して受験だけに取り組むって心構えは変わりませんでしたが、2年目は1浪の経験もあって強くなれた気がします。*Monthly Test* 前も「ここ復習できてない！」って思わずに「1回やってるから大丈夫だろう」って大きな気持ちで挑むと心に余裕が出来て、大体成功して良い点数が取れてって感じでしたね。

### 「思いつかなかったら終わりだな」って受験中ずっと思っていました。

数学とか予習はあんまりできなかった。ハイのテキストはあまりできてない。前期はいいけど夏から後期にかけて全然できなくて、自分には滅茶苦茶レベル上がった様に感じて、でも解答聞いたときに「あ～」って納得できて、数学って発想重視ってよく言われるけど、発想というよりは「これ見たらコレ！」て言う部分もあって、でその中で発想が大事で、「これ見たら思いつくのかな」って思ってて、「思いつかなかったら終わりだな」って受験中ずっと思ってました。だからテキストはしっかりやって「似たような問題が出なければ終わったな」、って思うくらいやって、授業でいろいろなパターンを網羅してもらえたと思うので、そういう風にやってました。

### 河合の模試で偏差値82とったときは、そんな点数出るんだって思いました(笑)

化学が好きで、河合の記述模試で偏差値82取ったときはそんな点数出るんだって感じでした。河合って結構出にくいので。でも理科系は努力すれば伸びる印象。基礎をしっかりすれば安定するっていうのが実感できました。
授業の考察の記述は全部大森先生に見てもらいました。あとは緒方先生がメッチャ見てくれました。過去問と記述を全部持っていって、慶應の前の期間もずっと見てくれてて、プリントとかもくれてほんと助かりました。**代官山** *MEDICAL* での2年間はずっと睡眠不足で辛かったけど楽しかったです。一浪時は苦しかったけど、授業は楽しかった。2浪目は *Monthly Test* で結果がポンポン出て楽しかったし、成績いい人たちの中にも話しが合う友達もできてよかった。あと2号館隔離されたのもとても良かったですね。落ちつけました。マンスリーマンスリーってテストに追われてたのが1浪目で、2浪目はテストはあるけど最終目標だけ見据えていた感じがあります。

### 化学のテキストも、難しいところはわざとやらないでいました。

僕は通学時間が2時間くらいかかるので、朝は爆睡、帰りは単語帳を見ながらぶつぶつ言ってました。英語がとにかくやばいって思っていたので。理科系は授業で確認して、それ以外の時間はあまり触れないようにしてた。触れると難しい事やりたくなって泥沼にはまりそうだったんで。なので去年貰った化学のテキストも、難しいところはわざとやらない。今年のテキストの前期はやってました。むしろそれしかやってない。もらったプリントも完遂できなくて。テキストだけでした。基本に立ち返りました。あとちゃんとテキストを改訂してくれてて、正直1年目のテキストを2年目もやるのかなって少し思ってましたけど、被らず作り直されたので安心して、今年のと去年の復習もやれました。

### 医者になる人に悪い人はいないなと思いました。

今大学はほんと毎日楽しいです。でも課題がめっちゃ多くて…。課題を終わらせようと思うと昼休みとかもつかって、受験の時と変わらないかも。雰囲気もめっちゃ良いですね。現役生が多くて元気な人が多いです。**代官山** *MEDICAL* で一緒だったな長岡慈明とか代表格ですね。老川君もいるし。入学当初は**代官山** *MEDICAL* で固まってました。代官山の先輩もめっちゃよくしてくれて。親身に面倒みてくれてます。医者になる人ってやっぱこういうひとなんだな～って思いました。悪い人はいないなって思いました。

## 代官山 MEDICAL のテキストで予習復習をして質を高めた。

一浪と二浪の時はやっぱり違いますね。駿台の京都校でやってた一浪の時は手を出すのが多く、何をやろうかというものが漠然としか決まっていなくて、なんていうかやる量が多すぎて、受験の直前になっても手が回らないという感じだった。
二浪目は**代官山** *MEDICAL* のテキストだけをやりきろうと決めていたのでテキストの復習予習をしっかりやって質を高めた方がいいと思ってやってきた。二浪目は意識して他のテキストに手を出さないようにした。他のテキストに手を出して成功している人もいて、それでもいいと思ったが、僕は後ろの人に伝えるためにも**代官山** *MEDICAL* のテキストだけを使って、それでどうなるか興味があったのでやってみました。一浪に比べて迷わず、目の前の課題をしっかりやって、他にやることがなければ過去の教材を反復してやった。
数学のトップレベルのテキストに思い入れがあります。トップレベルの分厚いやつをやり直して、解いた日にちを付けて、いつやったかなどをチェックしていた。化学も物理も繰り返しやりました。物理は重要問題集や2学期に名門の森を解いたりしていた。数学の分厚いテキストはちょっと余った。夏期講習や冬期講習を含めちゃうと、結構量が多いので、振り返るとちょっとだけ多かったかな。

## 復習は計画立ててやっていて、小さい専用ノートを作って1年間やり通しました。

授業の時はできるのに、なぜか自分でやるとできなくなるのだろうという葛藤はありました。そんな時は先生に聞きに行って解決しようと思いました。その時に聞いた話は専用ノートを作って、どこができなかったのかをメモしていました。復習は計画立ててやっていて、小さい専用ノートを作って1年間やり通しました。1週間の動きを把握して、何曜日には何をやるかをノートの上に記録し、バァーと線を引いて日付を書いて出来たやつに×をつけてやっていきました。題名は“報復の復習ノート " と題して、各大学に向けた復讐と、単に復習を行うノートという意味を込めて記入を続けたのもよかったと思います。

## 並んで戦えるような相手がいた。お互いの集中力が刺激になった。

辛さという面では一浪目の方がつらかったですね。二浪目になればやればできるようになっていったので、また、競い合える相手がいるのがよかった。高橋秀(東京慈恵会医科大進学)とか長岡慈明(東京慈恵会医科大進学)とか、並んで戦えるようなやつ、気にするような相手がいた。一浪目は駿台、周りは別学部を希望している人がいっぱいいて、自習室では隣の奴がどこ目指しているのか知らないし、自分はどこか違うんだとどこか逃げている部分があった。
しかし、**代官山** *MEDICAL* では、秀が隣にいると怠けられないじゃないですか？
秀は遅くまでやっているし、自分もやらないでどうするといった気分になった。お互いの集中力が刺激になった。僕は初め慶應を目指していて合格するならば、**代官山** *MEDICAL* で一番勉強が出来なきゃいけないし、勉強量も一番でなければいけないと自覚していました。だから朝早くから夜遅くまで勉強していました。朝7時には来ていましたね、たまには6時台にも来ていましたね、タイムカードを見て自分でも嬉しくなって“おーっ " って思ったり。11月くらいからなぜか眠くて起きられなくなったりしましたが。ライバルがいたっていうのが一浪目と大きな違いでしたね。*Monthly Test* で高橋秀に負けたら悔しかったですし、ましてや慈明に負けると嫌だなーと思いました。慈明は遅くにくるじゃないですか？あいつなりに効率よくやっているとは思ったが、僕の方が勉強しているのに何で負けるんだ、と。こういったしがらみがあってこその受験勉強だったと思う。

## 踏ん切りがついたっていうか、覚悟みたいなものができましたね。

周りに二浪が多かったというのもありますけれども、何回も同じようなことをやって、同じような勉強をやるじゃないですか。高校の時もやったし、一浪目にもやったし、そういう点で何回やるんだって思いましたけれども、これで終わりだと思って決めていったら完全にこれでやりきるんだから、やっていった方がよいと思いましたね。踏ん切りがついたっていうか、覚悟みたいなものができましたね。どうせもう、来年は絶対やらないって決めていたので。

## 直前期にマンツーマンをとったのは正解でした。最終的な詰めになりました。

直前期に薄先生とか、マンツーをとりました。直前期にマンツーを取ったのは正解でしたね。慈恵の対策にもなりましたし、数学や他の科目もミスしないような勉強を詰めてやっていたので本当に良かった思っています。啓寿先生にも数学を上げてもらえましたし、生物の大森先生にもお世話になりました。

## 2学期に向けて気持ちを切り替え臨戦態勢になっていました。

夏に帰省したのは息抜きになりました。周りからは「えっ、帰るの？受かる気あるの」みたいに反対もされました。二浪しているじゃないですか。だから意味のあることをやろう、メリハリをつけてやろうと一年間ずっと思っていたので、帰る時もリラックスして、息抜きして1学期、2学期を区分けしようって気分でした。ただ、だからといって遊びには行きませんでした。受験を終えてから行こうと決めていました。行くのも選択肢としてありだと思うんですけれども、僕の場合はこの一年間は完全に受験に捧げようと決めていたんで、行かないでいいやと思っていました。外の世界を知ってしまうと、アイデンティティが失われてしまうので、この一年間勉強して、絶対に大学に入るという強く思ってやらないとダメだと思っていました。
実家からの帰りの新幹線に乗って東京に向かっている時に考えたことは、「どうやってこのあとをどう過ごそうか」ということで、すでに気持ちを切り替えて臨戦態勢ができている状況でした。
僕は絶対慶應に行くって決めていました。去年の一年間は悔いのないように勉強していたんで、これで慶應に受からなければ、慶應と縁がないんだと気持ちを切り替え、慈恵と縁があるなら慈恵に進めば、絶対この先の道が正しかったと思えるような日がくると信じて進んできました。

## 石井先生の授業は指されるので緊張感がありました。

英語が一番苦手でしたね。全然偏差値も安定しないし、長文は読めないし、単語は解らないやらで、どうしようって感じでしたね。石井先生の授業で指された問題も普通に間違えてましたが、全部の授業を復習していたので、出来ないところがテストにでたらどうしようってことを常に考えていて穴がないようにしていきました。
石井先生の授業は指されるので緊張感がありました。もし答えられなかったらいじられるって思って。横に座ってた山口(山口裕平君：日本医科大進学)もいつも飄々としてるんですが、結構小心者な部分もあって“どうしよう、どうしよう " って言っていました。
英作文が冗談抜きでヤバくて、慶應の英作文が30分以上かかるという状況で、辞書で調べてあのできだったので、どうにかしないとなと思いました。パクるっていうことを知らなかったので、パクること覚えてから色んなところからパクっていました。他人のものを吸収して自分なりに消化して、次のものを目指すことが重要だ思いました。

## 慈恵は海外研修に行きやすいので、そこが魅力です。

慈恵は海外に結構研修に出させてくれる。研修医期間はあまりよくないみたいですけど、医局に入って海外に行った時に奨学金がでるのは慈恵ぐらいという。それが魅力です。
普通は海外行ってただ働きする感じで、そこからスタートなんですけど、そういった意味で海外に出やすい雰囲気があります。海外の各所に病院があり、僕は外科志望ですが、ラグビー部の先輩も先日ジョンズホプキンス大学に行ってくるなど、在学中に海外研修に行ったりしている学生がいます。
5、6年生の時に学校の課題実習というかたちで海外に行っていいんです。海外での単位は確かもらえて、6年生になるとポリクリと言って学校の委員を、葛飾、柏、本院、第三病院を回っていくが、その期間をすっぽかして外国に行くことができるので、一応、単位はもらえているということになると思う。そこらへん自由になっている。
慈恵は暁星から来る人が結構多くてちょっと集まったりもしているが、みんなわけへだてなくやっており、本当に合う人を見つける感じですかね。
実験というか、ここまでの実験というのはステレオタイプだが、自主的にドンドンやっていって、早く終わったら早く帰っていいという感じ。授業も楽しいし部活も楽しい感じ。飲み会はあんまり開かない、先輩が配慮してくれている部分もある。時期ではないのでそんなに多い感じではない。同学とかで“今度ここ行こう " など計画を立てたりしている。こういう部分が大学生になって自分で計画したりできるのが楽しい。

## 海外で幅広い知識を身に付け、日本で貢献できる外科医になりたいです。

医者は体力勝負だからラグビー部で筋力アップして、馬力をつけています。**代官山** *MEDICAL* からラグビー部にはいったのは僕だけで、他の卒業生は、慈明はハンド、秀は陸上ですね。老川は軽音と弓道、井上さんは女子バスケットボールで、長岡鈴佳さんは女子バレーボールですね。
将来的には、まず海外に出て海外の面白い知識を吸収したいんですけれども、その目的っていうのは、患者さんを目の前にして自分があそこで学んでいれば患者さんを救えたのに、って思うことがないように幅広い知識を得たいため。それで日本に帰ってきて、日本で貢献できるような外科医になりたいと思っています。

卒業生が語る

# 合格への軌跡 2015年

WAY TO SUCCESS

杏林大学医学部　2次合格

## 先生との距離が近いので、ラフに質問できてそれが大きいですね。

杏林大学医学部進学　須長 幸嗣君（志学館高校卒）





### 「物理で点稼ぐぞ！」って思って勉強してたから良かったんだと思います。

1学期が終わって、石井先生と相談して、僕は途中から生物選択から物理選択に変えました。2浪目だったし、かなり大胆な決断だったんですが、夏の講習でカリキュラムを組み直してもらいました。生物選択の頃は「生物を得点源にしよう」とは思えなくて、「生物で足引っ張られなければいいや」くらいにしか思っていませんでした。日医は物理が簡単って言われていて、それもきっかけで物理選択に変えてみようと思ってかえました。
結果、物理が割と得点源になって、特に今年の杏林では物理で得点稼げたので、そう考えると「物理で点稼ぐぞ！」って思って勉強してたから良かったんだと思います。

### *Weekly Test* で自信がついた。やる事はやっている感触がつかめた。

*Manthly Test* で物理は最後までランキングに載らなかったです。平均超えることはあったけどギリギリで、*Weekly Test* がずっと1位でした。あれで自信ついた。やることはやってるって、感触つかめたって。*Weekly Test* は中間層レベルのテストで、その中では1位取れて、上位クラスのテストだと1位取れなくて、自分のいる位置が分かった感じでした。こっちでは勝てるけど、あっちでは勝てない。なるほどねって。でも基礎は出来ている自信はありました。受かったから言えますけど最終的に物理に変えて良かったかなって。生物ではどうしてもモチベーション上がらないんで。去年から考察問題に手が伸びなくて、暗記だけで済ませようとしてる感じがずっと続いちゃってるから、生物は伸びないし、なんとなくでやってたし。

### 夏にみんな仕上げてきて「やらないとヤバい」ってなった。

授業の数が多くて、正直に言うと周りの生徒は結構みんな予習や復習するじゃないですか、僕は1浪のときからそうなんですけど、1浪目は駿台だったんですけど途中から予習をやらなくなりました。数学はゴリゴリ予習するんですけど、英語は苦手だったんでやってないです。理科は…、生物選択のときは一切やってないですね。そんで、2浪目に入って1学期はどうしても入試の感覚が無いから、気合も入らないし。夏にみんな仕上がりはじめて、僕は生物選択から物理選択に変えて、物理をひたすらやってました。そこから危機感が募りました。特に物理は周りと比べてビハインドをしてるから、「やらないとヤバいな」ってずっと物理を集中的に勉強してたら、他の教科が落ちてきて…、そこで「本格的にヤバい」と思って、必死こいてやりました。数学もやって、物理もある程度理解出来たと思ったら他の教科をがっつり時間割いてやってました。けど物理がある程度できるまでに我慢の時期が必要でした。

### 受験のためだけに教えてくれる、割り切ったシンプルな感じが良かったです。

数学なんですけど薄先生は僕の中では神レベルです。前期は簡単だったんですけど、後期から難しくなって、どうアプローチしていいのかを教えてくれて、練習問題もやってくれて、そのなかで「とりあえずここ暗記ね」っていう「こう来たらこうする」って教えてくれたんで、「なるほど！」って思える授業でした。
他塾では数学的に教えてくれるんですけど、**代官山** *MEDICAL* では受験数学として教えてくれて。それが良かったなって。薄先生に会えてよかったって。薄先生に指導してもらって数学伸びて、日医も一次は通ったんで、それは結構でかいなって、数学が結構良かったのは、薄先生のおかげかなって。もちろん典先生とかも良かったんですけど、薄先生が一番印象に残ってますね。受験のためだけに教えてくれる割り切ったシンプルな感じが良かったです。啓寿先生はそこから応用的なテクニックを教えてくれて、それはそれで「なるほど！」って面白い感覚で聞いてました。数学の先生は皆好きですね。

### 先生との距離が近いので、ラフに質問できてそれが大きいですね。

先生との距離が近いのがいいですね。他塾だとそっけない先生も多い、「そこさっき言ったでしょ」とか「授業聞いてないの？」とか言われるみたいで。しかも人数多いから授業中質問できないとかありますからね。**代官山** *MEDICAL* だと人数少ないからすぐ質問できるし、答えてくれるし、先生との距離が近いので、ラフに質問できてそれが大きいですね。

### 阿里先生のマンツーとってから、いい感じに伸びてきました。

英語は阿里先生にメッチャお世話になりました。英語はグダグダでしたからね。マンツーで阿里先生って過去問やらないんですよ。同じ長文は出ないからっていって。で、たくさんプリントくれるんですよ。長文とか。私立ってあまり和訳問題って出ないじゃないですか。慈恵・日医は出ますけど。長文が読めればいいって言って長文のプリントたくさんくれて。で、直前期になって「ネクステやってるんですけど～」って相談したら「いろいろやるのはいいけど、隅々までやってたらキリがないから」っていって、先生が自分で作った600題の解説付きテキストをくれて、それをやってたんですよ。本とかいっぱい出してる先生だし、今考えると有名講師で、しかもマンツーマンで授業ってすごいですよね。最終的に河合の模試で偏差値60行くとは思わなかった。医学部入試では低い方だと思いますけど、自分の中で伸びを感じました。阿里先生のマンツーとってから成績が下がったことが無いですね。いい感じに伸びていきました。

### 素直にやってると結果が見えてきて、素直に聞いとくべきだなって思いました。

物理とかとくに授業も楽しかったし、寺澤先生とか小澤先生とか楽しかったですよ。物理好きになれて良かったですよ。「物理無理だ！」ってなったら夏すぎて1教科分無駄になるとこだったんで。先生から良問の風を「これだけずっとやってろ」って言われて、良問ずっとやって授業で＋αもらって、物理の2人の先生を信頼してやってました。前期はどの科目も我流で「こうすりゃ出来るだろ」みたいな感じでやってて、でも物理を初めてから先生の話聞いて、素直にずっとそれ通りにやってると結果が見えてきて、素直に聞いとくべきだなって思いました。
先生も素でいてくれるので、話しやすいし。

### 最初の1か月頃は我慢の時期で、そこから点数に現れたのが大きいですね。

メンタル的な部分は、物理に関してはみんな「最初乗り切れば大丈夫だよ」って答えるんですよ。それを素直に信じてやってました。中には丸茂くん（丸茂正展君：東海大医学部進学）みたいに「いや辞めた方がいいよ」って言う友達もいて、佐藤遼（杏林大医学部進学）に後から聞くと「実はあの時ライバル一人減ってラッキーって思ってたんだよね」って言われて、でも蓋を開けてみれば同じ大学に進学して驚いてましたけどね。
二木（二木修平君：帝京大医学部進学）に一番相談して「いけるっしょ」って軽い感じで答えてくれて、それを信じて勉強して、最初の1か月頃は我慢の時期で、そこから点数に現れたのが大きいですね。0からの10点、25点ってなって。成績の伸びが見えないと、0点が続いたらメンタル的にキツかったでしょうね。*Manthly Test* の成績じゃなくて、*Weekly Test* の成績が調度良い目安になって良かった。できれば最後上のクラスに行きたかったですけどね。あと *Manthly Test* のランキング載りたかったですね。

### テキストは「またこの問題か」ってくらいやっていました。

1浪の時はいろいろなテキストに手を出してました。2浪目**代官山** *MEDICAL* に来た時は**代官山** *MEDICAL* のテキストをやろうと決めて、英語は一切他の参考書に手を出さず、阿里先生からもらった600題や長文の問題をやりました。数学は**代官山** *MEDICAL* のテキストと薄先生の著書、あと化学は重要問題集やってました。重問やって直前になって節田先生に聞きに行ったらセミナーもいいからセミナーもやっとけって言われて、セミナーで基礎を確認しつつ、抜け落ちてる分野がないか確認して、物理は割と予習していて、時間が空いたら良問の風やって、あとは先生のプリントとかもやってました。良問に関しては「またこの問題か」ってくらいやっていました。

### ちゃんと卒業して挨拶に来れるように頑張ります。

医学部に入って授業とかで臨床医学入門とかあるんですけど、そういうのを受けてもまだ「理想の医師像」とかはピンと来てませんね。これからだと実感わくと思うんですけど。解剖とかの授業受けてると「医学部だ」って思いますね。ちゃんと卒業して挨拶に来れるように頑張ります。

卒業生が語る

# 合格への軌跡 2015年

WAY TO SUCCESS

| | |
|---|---|
| 東京慈恵会医科大 | 2次合格 |
| 順天堂大医学部 | 2次合格 |
| 昭和大医学部 | 2次合格 |
| 日本大医学部 | 2次正規合格 |
| 杏林大医学部 | 2次正規合格 |

## 石井先生の授業は英語だけじゃなくて、色んな場面で役立った。

**東京慈恵会医科大学進学　田崎 翔太君（渋谷教育学園幕張高校卒）**

## 代官山 *MEDICAL* のアットホームな感じが好きでした。

**代官山** *MEDICAL* で好きだったのはアットホームなところですかね。僕はすぐに先生に質問するってタイプじゃなく、考えても解らなかったら行く方が多かったんですけれども、それでもやっぱり、大手予備校の出身の身としては、質問しやすい環境だと感じましたね。授業を通して、先生方との距離が近づいて質問しやすかったです。そこはやっぱり**代官山** *MEDICAL* の魅力だと思っています。
前は駿台にいたんですけど、やっぱり大人数と少人数というところが一番違うところです。少人数だと先生によっては自分のノートや答案を見てくれたりとか、いちいち添削してくれたりして、大手では絶対ないですし、大手では質問するにも並んでいる人が多くて、結局質問できないということもありました。
**代官山** *MEDICAL* にきたきっかけは兄でした。現役の時は、僕が国公立に行きたいということで、一応代官山に通うって話もあったんですけれども、そこは僕の意志で見合わせて、ただ、受からなかったら私専で代官山に入るって決めていて、浪人した瞬間に代官山っていうことで入塾しました。

## 石井先生の授業は英語だけじゃなくて、色んな場面で役立った。

英語はやっぱり石井先生の授業が一番、身になったと思いますね。結構細かい専門的な話だったり、それこそ、他の予備校では聞けない話なども聞けました。授業中の雑談みたいな話も面接で使えたり、全体を通して英語だけじゃなく色んなところで使える場面が多かったと思っています。
二次対策や面接対策も、やっぱりテンプレートみたいな解答は、大手は面接対策はしないですから、僕も面接対策やんないで現役の時に受けてキョドってたりしましたけれど、やっぱりテンプレートの解答を覚えたりとか、ここの大学はここがよく聞いてくるとか石井先生から教えてもらって、いざ出た時にしめしめみたいになって、気持ち的に楽になりますし、面接対策やっているとやっぱり自信がついて面接になった時にあんまり緊張しなくなったんで、そこは大きな違いかなと思いました。

## 1学期は特にテキストの周回をやりました。

数学は、僕は高橋典先生と啓寿先生の二人がよかったですね。典先生は結構解法をいっぱい教えてくれて、色んな解法を知っていると、いざ何かわかんない問題があった時も、ああだこうだ考える力がつきました。啓寿先生は授業中に答案を結構見て下さって、ここはこうした方がいいとか、的確に指摘してくれたのでよかったです。あとは個人的に平野先生にプリントをもらっていて、あと薄先生からももらっていました。*MonthlyTest* を通じて苦手なところとかを自分で見つけて、「そこの問題欲しいです」というとプリントをくれたので自分でやっていました。一番落としたくなかったのは小問集合で、平野先生に小問集合欲しいですって言ったら、作ってきてくれて。秋ごろにもらったんですけれども直前期にもやり直したりしていました。
1学期は特にテキストの周回をやりました。後期はちょっとトップレベルだったので結構難しい問題も入ってきてしまって、あまり何回も復習する感じじゃなく、どちらかといえば覚えちゃって。1学期の基本的なことがまとまっているテキストで、そこは何回も何回もやりました。

## 物理は「癒し系」の小澤先生と「激アツ！」な寺澤先生。

寺澤先生と小澤先生でした。小澤先生は解説がすごい丁寧で、プリントを頼めばくれる先生でした。苦手の分野のプリントをよくもらいました。寺澤先生にはよく質問をしに行ってました。僕は微積物理をやっていたんですけれども、聞くと結構解説してくれました。
小澤先生は癒し系なのに情報量はすごく丁寧で、授業冒頭で慈明(長岡慈明君：東京慈恵会医科大進学)が変なことを聞いて、よくわからない話が膨らんだりするんですけれども、結構変な話してもノッテきてくれるので、楽しかったです。寺澤先生は熱いですね、ゲキアツ！外にガンガンに声が漏れているじゃないですか。窓開けていると、声が漏れて外から見上げている人がいるんですよ(笑)。

## *WeeklyTest* で分からないところは、必ず復習していました。

*WeeklyTest* は、僕はそんなに取れてなかったですね。波がありましたね。取れている時は取れているんだけれども、ひどい時は結構ひどいみたいな。1学期のセミマンスリーは結構点数高くて2位くらいだったけど、玄ちゃん(東京慈恵会医科大進学　齋藤玄徳君)に負けちゃいました。
*WeeklyTest* で分からないところは復習していました。問題見て、まったく手がつかなかったら解答見て確認したり、テキスト見直して間違ったところは徹底的に見直すようにしていました。
*WeeklyTest* に関しては、同じクラスのみんな採点にうるさくて、数学とかだと特にみんなで“ここ違うだろう？" みたいな抗議をしていましたよ。そういう環境で、切磋琢磨していたような感じがしました。2学期になると *WeeklyTest* が難しくなってきて、こちらも「あれ？時間内に終わらない」ってことが多々あったとは思うんですけれども、1学期の *WeeklyTest* は基礎だと思っているので、前期の *WeeklyTest* は結構余裕で終わる感じじゃないと本番で足元すくわれちゃうと思います。





## 去年の自分を全否定しないと、多分今年も受からないと思ってました。

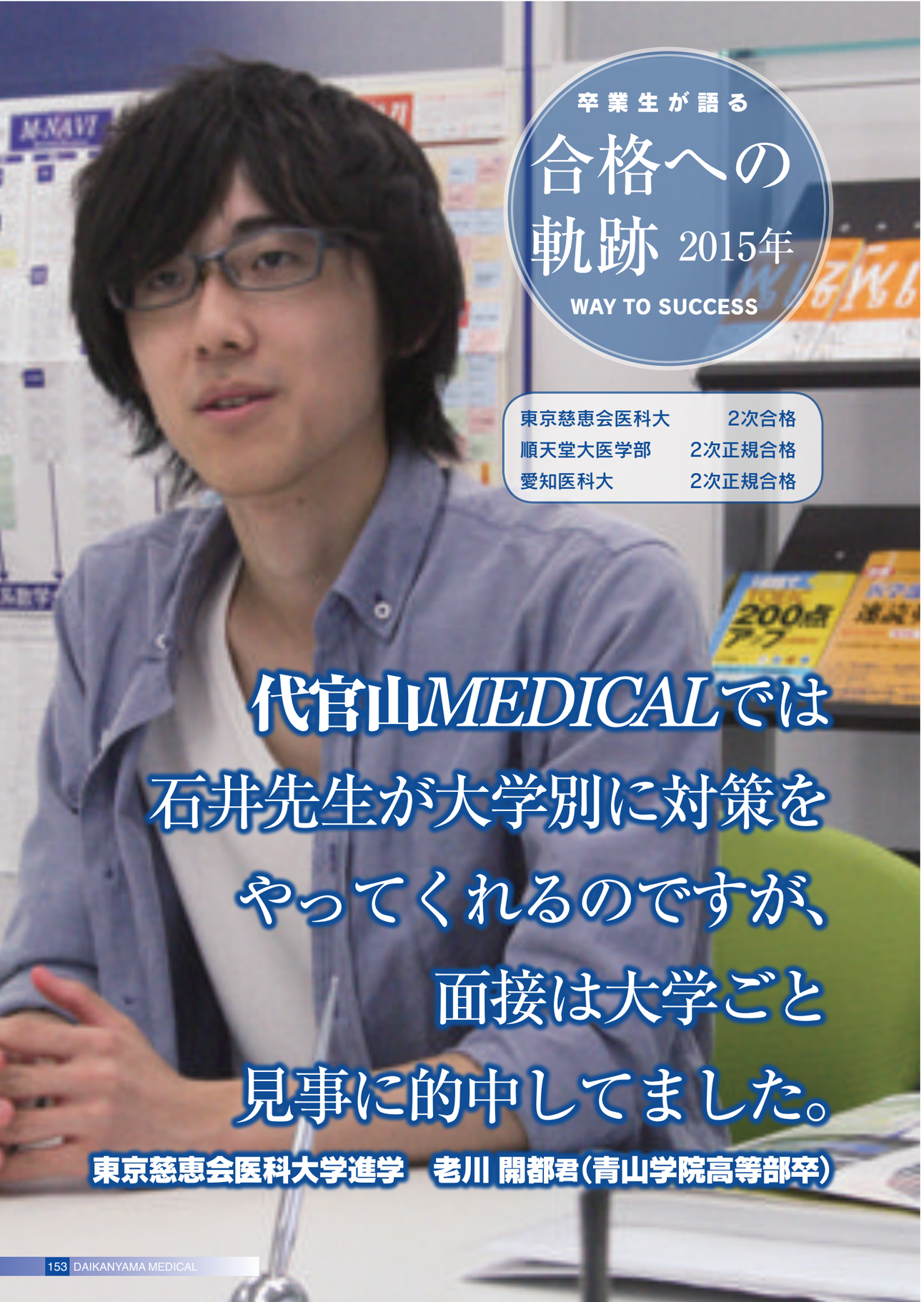
僕は一浪して入ってきて、ある程度は成績があったんですけれども、成績があっても去年落ちたっていう結果があったんで、自分を全否定しないとたぶん今年も受からないだろうと思って、基礎が大事って言われると、やはり基礎が大事なのはもちろんわかってますけど、そこで疑心暗鬼になったりしないで、素直に受け入れてやることはやろうと。僕は基礎だけでは物足りなかったので、自分でちょっと難しい問題集を開いて難しい問題を解いたりしましたけれども、やれと言われたことはやっていました。
ご飯食べる時間を変えている人は確かにいました。なんかこの時間のほうがいいって言う人もいましたし、ランチでみんな下に行っているからその時間に勉強したいっていう子もいました。僕は普通の時間に食べていましたけど。二号館は意外と、僕は6月、7月くらいは中だるみもなく頑張っていた時に、だいたい授業が終わったりすると自習室で結構寝ている人がいて、僕はこうはなるまいって思っていました。何がなんでも起きてやるって。夏が終わるまではずっとやっていました。秋ぐらいになると体力の限界がきて、カフェインも効かなくなっていましたけれど。夏ぐらいまでは周りを見て戒めてやっていました。あの自習室って良いも悪いも全部見えちゃうから。指定席があるのがよかったですね、常に席があるのがやりやすかったです。
　今年遊んでいたら同じ環境でもう一年頑張らなくてはいけないだけなので、今年一年で決めてやろうって思うんだったら、そこは律して頑張んなきゃなって。
高校の時はずっと我流でやってきて、高校で友達がこの参考書いいよって言われたらその参考書をやってみたりして、自分がいいだろうっというものをやってきました。でも、浪人するとそのやり方で間違っていたんだから、そのやり方を捨てなきゃいけないと思って。石井先生やその他の先生方がこういう風にやった方がいいと言ってくださったので、それを実践して余った時間で自分のやりたいことをやろうと考えていたので、昨年との違いは「こうやればいい」って言ってくださる先生方がいたのでそこが大きかったと思います。

## 7月、8月、本気で頑張れたやつが、たぶん本当に勝てるやつだと思う。

杏林は正直最初はやばいと思ってました。杏林って結局正規でしたけれど、時間に対しての問題が、特に数学がすごく多くて、過去問とかでは全部解けていないんですけれども、解く気でいって、分かんない問題があったり、時間がなくてできなかった問題があると、そこばかりに目がいって落ちた気になっちゃって、杏林やばいってなって、受験大丈夫かって思っちゃって。でも、杏林の一次受かってから、なんだかんだで大丈夫だなと思えて。自分が思っていたより悪くはなかったことが多くて。昭和と日大は、「これはきたっ」てすごい思ってて、間違いがあまりわからないみたいな。結構余裕あって終わって、見直しも出来ました。

## 先生の言うことを聞いて、リズムを崩さず勉強すること。

座談会(合格者座談会4月29日実施)と話かぶっちゃいますけれど、浪人中は一人で頑張った方がいいかなってことですかね。みんなでやって結果出してる組もいましたけれども。結局、秀(東京慈恵会医科大学進学高橋秀)とか割と自習室でやってる組の方が、いいところ受かってたり、いっぱい受かってたりするんで。なんだかんだ、受験は一人で頑張った方がいいかなって思います。
　僕は周り蹴落してやろうってくらいの気持ちで頑張ってましたから。自分だけ受かればいいって心の中で思ってました。受験は周りのことは気にしないで、自分との戦いって言ったらあれですけれど、本当に自分でどれだけ点取れるかっていう点取りゲームだと思うので。悪いとこ見つけて修正して、それを繰り返した方がいい。
一番言いたいのは、1学期は基礎をやるのと、年間通してテストの復習だけは絶対やる。過去問やってわかんないところがあったら確認し、受験期入ってからもわからない問題があれば解決すべき。教科書も素晴らしいですけれども、テストは自分の実力がわかるので、テストを活用して欲しいと思います。
7月、8月、本気で頑張れたやつが、たぶん本当に勝てるやつだと思う。夏頑張れないやつは絶対頑張れない。夏は本腰ですよ。夏で伸びた身としては。1学期踏ん張って点数でなくても、夏も同じように踏ん張ったら、一気にくるんで。僕は河合模試とかで一気にきたので。本当に夏、信じて頑張って。先生の言うことを聞いて、リズムを崩さず勉強すること、以上。



卒業生が語る

# 合格への軌跡 2015年

WAY TO SUCCESS

| | |
|---|---|
| 東京慈恵会医科大 | 2次合格 |
| 順天堂大医学部 | 2次正規合格 |
| 愛知医科大 | 2次正規合格 |

## 代官山MEDICALでは石井先生が大学別に対策をやってくれるのですが、面接は大学ごと見事に的中してました。

東京慈恵会医科大学進学　老川 開都君（青山学院高等部卒）

### 中2から通い始め、だんだん医学部のイメージが強くなっていった。

**代官山** *MEDICAL* には中学2年から通い始めました。中学生の時から受験勉強をしている現役生や浪人生の姿を見て、「自分も将来こうなるんだな」ってやる気をもらっていました。学校では附属大学に上がる人が大半で温度差を感じましたが、ここに入学してから「医学部へ行くんだ」っていう意識が高まりました。高校の勉強は復習メインだと思いますが、ここでは予習している人がたくさんいるので自分もさきどりしてやっていかないと負けちゃうなという意識はありました。学校とは全然雰囲気違いましたね。数学の典先生は内容的にはハイレベルで意欲的に参加できるように楽しく授業をしてくれました。テクニックや時間短縮法を習って本番の検算はそのテクニックでやったりしていました。

### 「ここを計算スペースに使う、暗算はしない。」

数学は最後まで苦手意識が強かったんですけど、数Ⅲは入試で一番出るので早いうちから対策すべきです。以前はスピード重視で暗算に頼ったり計算は余白を適当に使っていてミスが多かったので、受験前は余白の使い方を決めてその意識をずっと持って本番に臨んでいました。定規で引いて余白の使い方を意識しました。「ここを計算スペースに使う、暗算はしない」という自分への戒めでもあります。計算ミスしたまま解答用紙にいっぱい書いてもそれは0点なので。模試でもわかってたのに計算ミスっていうのがあって、この方法に切り替えました。化学も計算が多いので同様に決めていました。数学よりも、化学の方が答えだけ記入することが多いので計算ミスは許されませんから…。
化学は重要問題集のような定番パターンを押さえている問題集を早めに周回して暗記を見直して、新演習で仕上げていました。新演習は250問くらいあって、どれを解くかってのも選択してやっていました。新演習の解説はドライですけど暗記を仕上げていれば問題ないですし分からない箇所は先生に聞いて解決できました。*Monthly Test* でもスピード重視で慌てて、「全部解こう」「満点取ろう」って思って挑んだらミスが多発していたので、やはり正確さが重要だと思います。
入試本番の理科は得意な生物からやっていました。順天堂とか特に化学が時間がかかるので生物は正確に解こうと思ってました。そこで時間稼げたらなと…。生物は教科書や資料集の図を頭に入れるくらい読み込んで、化学同様演習を仕上げました。植物の複雑な回路とかも自分でメモ帳に書いて毎日見直していました。

### 代官山 *MEDICAL* の大学別対策で面接は大学ごとに見事的中でした。

**代官山** *MEDICAL* では石井先生が大学別に対策をやってくれるのですが、面接は大学ごと見事に的中してました。石井先生にあてられて本番さながらで、みんなが聞いてる中応えるから緊張感もあるしよかたです。配布資料は、データが豊富で。事前にどういう試験だってわかって心構えができるのは大きいと思います。とくにグループディスカッションは、みんなで実践できて為になりました。僕自身、慈恵は受からないと思っていたので、面接で希望をもちました。受験していても数学ができていなくて、補欠回ってこないかなと思ってました。数学は最後まで自信を持って終えられなかった。

### 大学生活は充実してますね。

部活は弓道部と軽音楽部で、ベースをやっています。軽音は都内のスタジオを借りて東京事変とかカバーしたりしてますね。レベル高くて演奏が難しいのでやりがいがあります。今は校舎が遠くて朝きついんですけど2年から新橋になるので楽ですね。看護学部との合同授業もあります。

### 患者さんに優しい精神科医を目指します。

父が医師なので小学生の頃から将来は医師になろうと考えていました。父の職場へ連れて行ってもらい現場を見て、患者さんの笑顔も垣間見えて、医者になると決めてからブレることは無かったですね。少子高齢化で今後認知症やアルツハイマーの患者さんも増えていくと思うので高齢者の医療に携わりたいです。完治するのが難しい病気でも患者さんを労われる医師を目指しています。

卒業生が語る

# 合格への軌跡 2015年

WAY TO SUCCESS

| | |
|---|---|
| 東京慈恵会医科大 | 2次合格 |
| 順天堂大医学部 | 2次合格 |
| 昭和大医学部 | 2次合格 |
| 東邦大医学部 | 2次正規合格 |
| 北里大医学部 | 2次正規合格 |
| 岩手医科大医学部 | 2次正規合格 |

## 石井先生に言われてやってみたら、「写経めっちゃ大切じゃん！」って思いました。

**東京慈恵会医科大学進学　寺門 英里子さん（吉祥女子高校卒）**

### 「医学部受験生ってこういう感じなんだ」って刺激になった。

高3になって入塾したんですけど、今振り返ると数学がギリギリだったのでもっと早くから通い始めておけばよかったかなって思います。でも、すごく伸びました。それまでは学校に頼ってて期末とか中間を利用して問題集をやったり、自分で色々やっていましたが。**代官山** *MEDICAL* に通いだして、やっぱり学校だけだと医学部受ける人は学内で5人くらいしかいなかったから、石井先生の授業とかで「医学部受験生ってこういう感じなんだ」と思って凄い刺激になりました。
順天とか2次で高校の成績とか表彰状とかすごい見せるし、途中まで若干推薦も考えてたから学校の成績は落としたくないなって思ってました。試験一週間前くらいからは結構がっつり学校メインでやって、でも化学とか生物は**代官山** *MEDICAL* でしっかりやってたからそんなに勉強しなくてもいい感じだったので学校のテストは負担に感じなかった。でも浪人生と比べて、学校も行って塾も行って移動時間多いし不利だなぁと思って、勉強時間を浪人生に負けたくないと思っていたから、隙間時間も割とストイックにやってたかもしれない。（笑）

### 石井先生に言われてやってみたら「写経めっちゃ大切じゃん！」って思いました。

普段学校のない日は朝7時にきて21時半までやってました。英語の文法は絶対やろうと思って、7時半まで文法と単語って決めてそれ以外は比較的自由にやってました。薄先生からもらったプリントとか節ちゃん（節田先生）からの宿題とか、その時手元にあるものをやろうと。
テキストの復習とかも個人的には全然多くない気がするので。全然間に合いました。
21時半まで**代官山** *MEDICAL* でしっかりやって、帰ってやっても30分くらい。**代官山** *MEDICAL* 以外では勉強しなくてもいいかなって思って。
石井先生の授業は予習は一通り訳を書いて復習メインでした。先生にいわれてやってみたら写経めっちゃ大切じゃん！って思って。特に冬入ってからは超写経してました。英語は写経だけってくらい。やっぱり文章読んでてもその場で分かったつもりになって、実はよく分からないなって。2回くらい音読したら分かる気がすると思ってて、でもこれはやっぱり言われた通りに書こう！と決めて。それで書き始めて一つの文章に対して絶対2回は写経していました。写経は手を動かしながらすごい頭も使う。S, Vとか考えながら文構造とか単語の綴りも意識したりしてました。音読も真っ新の何も書いてないものを使って音読めっちゃしてました。それで見えない文構造を考えながらやってました。

### 「自分のまだやっていない範囲より、出来るところでちゃんと点を取ろう」って思った。

*Monthly Test* は、学校の定期試験とは違って、ここだと浪人生と一緒に試験受けるから、化学の小問って基本問題ですけど、等電点とか言葉が分からなくて解けなくて先生に質問に行ったけどこれはやれば分かるよって。自分のまだやってない範囲より出来るとこはちゃんと点取ろうって、割り切ってやってました。夏かな、凄い良くて。よかった～と思ってたけど、秋に数学も30点台で生物も全然できなかったときはヤバいなぁと（笑）
だから最後の *Monthly Test* はそのために勉強頑張ろうってなりました。それまでは実力テストみたいな感覚で意識してなかったけど最後はやっぱり意識しました。
私、生物が好きなんで生物すごく楽しかったです。**代官山** *MEDICAL* では先生の教え方がすごい細かくて、大森先生とかめっちゃ細かい。こんなところ読むんだ！みたいな。だから資料集の使い方がすごい変わりました。学校だと写真とか見るだけだったけど、授業受けて自主的に問題で分からないなって思っても資料集の字読めば割と載ってたりして、そういう所も読むようになりました。もう結構使い込んだので資料集はボロボロです。
お兄ちゃん、お姉ちゃんも**代官山** *MEDICAL* だったし、凄い良い先生って言ってた。
薄先生の授業とかめっちゃ楽しかったですよ！結構独特じゃないですか。それがめっちゃ面白くて。
上のクラスだったからやってる内容は難しくて、典先生とかも少人数で3人しかいないからどんどん授業止めて聞いて、現役生だけだし特に少人数だから気兼ねなく止めてって出来るのはラッキーだなと思いました。

老川君(老川開都君：慈恵会医科大進学)とか頭よくて、典先生と老川君がタイプ一緒で天才型だから、授業はだいたい私がいじられてました(笑)。

### 代官山 *MEDICAL* は質問しやすかったのが好きだった。

あと**代官山** *MEDICAL* で好きだったのは質問がしやすかったこと。めっちゃ良かった。先生たちとの距離が近くて。高1夏少しだけ他塾に行ってみたんですけど講師室のドアも閉められてて入っていけなかったし質問とかしたことなかった。
**代官山** *MEDICAL* に来て、「あ、皆質問してる!」って思って。それに緒方先生とか質問にもすごく丁寧に応えてくれて。記述メインで全部見てもらえたし。緒方先生人気だから極力自分でやって聞くのも1～2問くらいにしてました。それでも一人ひとりに時間をきちんと取ってくれてホント有り難かったです。

### 先生からの太鼓判を押されてノリで受験しました。

赤本を本格的にやったのは、期末が終わった頃に薄先生が「ここ解いて」みたいな感じで渡されてそれから過去問とか数学は解き始めて、あとはマンツーマンで節田先生と東医の化学の過去問をやってたくらいで、あとの教科は冬休み入ってからやりました。
受験校は、本当に石井先生が言った通りの学校を受けるって感じで。正直、浪人が嫌で最初は受かればどこでもいいと思ってて、受験校も順天は決めてたけど他に行きたい所も全然考えてなくて、とりあえず先生が言った所を受けようと。今は言ってもらえて良かったなって思ってます。夏と冬の三者面談でも「大丈夫だよ」って石井先生からも太鼓判おされたけど全然自分では無理だろうなぁと思ってたから、もうノリで受けた感じです(笑)。
私は面接が一番ダメージきて。集団面接とか差が分かるじゃないですか、発言とか、ヤバいなぁと思って。でも石井先生の面接対策ではライバルが何を考えているか聞けるから参考になった、「あ、それいい」みたいな。私は「好きな本は？」に対する答えも準備してなかったし、医学部目指す理由も自分の言葉にしてなかったから、いざ当てられたときに何も言えなくて…。あとニュースもそこで全部仕入れました。面接下手だったけど、「座右の銘聞かれるんだよ」って言ってたけど全然考えられなくて、慈恵でそれ聞かれ「本当に聞かれるんだ!」と思いました。
とりあえず四字熟語言えばいいかなと思って「一期一会」って言ったら割と褒められたかな。考え込んだりせず、一つ一つの出会いを大切にしたいですって答えられたからかもしれない。

### やりたいことをやってからの方が、万全で打ち込める。

現役で医学部って高いハードルだし、ましてや慶應・慈恵・順天は更に高いハードルだけど、それってやっぱり気持ちじゃないですか？知り合いに相談された時も、お母さんが部活辞めなさいとか言ってるのを聞いて、部活に未練がある状態じゃ絶対勉強やらないからもう気持ち次第だと思う。高2で部活辞めるとかもしなくていいと思ってて、私は高3の直前に部活引退したんですけど、自分に悔いが残るんだったら辞めたりしない方がいいと思う。それだったらいっそ浪人してもいいんじゃないかなって思います、個人的には。やりたいことやってからの方が万全で打ち込めると思います。

### 夏は苦手科目をどれだけ引き伸ばせるかを考えて頑張っていました。

僕は中３から**代官山** *MEDICAL* に通っていて、中３から高１はまで学校の勉強を手伝ってもらってて、高２くらいからですかね、夏休みに夏期講習も始めて、「医学部受験ってこんな感じなんだー」って思って。ここで講座全取りして勉強してても、青学だったので周りが勉強しないんですよ。一緒に流されちゃって。高２の頃は修学旅行もありますし、結構遊んじゃってて、本当にやばいって思い始めたのは高３の夏前くらいですね。さすがにこれはやばいんじゃないかと。マンスリーテストとかでランキングとか載りはじめて、「こんなに点数取らないと受かんないよ」と思いました。苦手科目の数学ができなくて、化学もそんなに得意じゃなくて、夏中に克服までとはいかないまでも、できるだけ仕上げたいなと思って。夏は苦手科目をどれだけ引き伸ばせるかを考えて頑張っていました。

高２の頃って受験の実感わかないんですよ。よっぽど「俺は慶應や慈恵に行くんだ！」という人は意識が違うのかなと思いますけれども、なんとなく私立医学部の中から上くらいに行きたい人は、そんなに危機感がないと思います。僕もやる気はあったんですけれども、危機感となると湧かなかったですね。

危機感は高３のマンスリーテストの結果で、現実見せられるっていうか、日ごろの努力が点数になってくると言い訳できないんで…。

### 英語は石井先生と朝岡先生、数学は薄先生、化学は三上先生と節田先生、生物は緒方先生。

数学は完全に薄先生。マンツーも取ってました。すごく分かりやすくて。夏に初めて集団受けて、そこからマンツーは薄先生にお願いしていました。

説明の仕方が革新的というか、新しいですね。すごく分かりやすくて、しっくりくるんですよね。だらだらーっとした大雑把な説明する先生は学校にもいますけど、それに比べて要点絞って、ズバズバズバって教えてくれるのは、すごくありがたいですね。

板書を見て説明して、書く時間取らせて、みたいなのがいいですね。書きながら聞いているとどうしても板書に集中しちゃって。どっちかになっちゃいますよね、聞きながら、見ながら書くって不可能だと思います。そこのさじ加減をわかってくれてた。

でも節田先生だから、信頼してたから、その煽りも含めてついていこうと思いました。

生物は緒方先生ですね。もうずーっと、高２の頃からかな。高１の時はちょくちょく会ってはいたんですけれども、高２からはずっと緒方先生でした。マンツーも夏はちょっと僕、遺伝ができなかったんで、本当に基礎から固めていってもらいましたね、課題をもらったり。直前期は過去問演習をやってもらった感じですね。緒方先生は説明を結構丁寧にしてくれますね。ホワイトボードに図を書くときは色をいっぱい使って、すごい分かり易く書いてくれます。説明も色々例え話じゃないけど、なんか日常品に例えてくれたりとかしてくれて、非常に分かりやすかったです。例えがあると、とっつきやすいというか、複雑な言葉を使うよりもそっちの方が頭に入りますよね。

### 石井先生の授業は英語だけじゃなく、医学部についても色々教えてくれました。

石井先生の集団で、予習復習やっていました。石井先生の授業は当てられるので緊張感が半端ないですね。現役生は前の方に座っていました。一番前だとどんなに眠くてもガクッてできないじゃないですか。その分、授業中に聞くと、復習も楽だし、すごい頭にも入ってくるのでよかったなって思います。当てられる時も「ここならわかっているのに、よりによってここかよ！」みたいな。予習をしてて、分からなかったところはしっかり聞こうかと思っていたところを当てられて、「わかりません」っていうことはよくありました。ちゃんと生徒の様子見てやっているんだなっていうのは思いました。英語は朝岡先生にもやってもらっていて、日医とかレベル高めのやつを、しっかり解説しながらやってもらうって感じで。直前は単語の並び替え、読解、あと記述というか短い文章を作るくらいですかね。一、二行の英作文をやってました。英作文から文法まで世話になりました。朝岡先生は自習用に自作プリントや冊子をくれました。この部分苦手なんですよっていうと、解答をくれたりくれなかったりで、解答がない時は先生に持っていけば丸つけてくれました。結構な量のプリントをくれて、それが結構入試本番にでました。あと、石井先生は授業で医学部について色々な話をしてくれましたね。二次対策してもらったんですけれども、こういうところを見られているよとか、こういう質問されたら結構下の位置にいるよみたいな、岩手とか、医療系の質問が飛んできたら下の方にいるとか…そんなことあるの？みたいな。普通分からないじゃないですか、質問の違いで自分の立ち位置が分かるとか。楽しかったことは、英語好きだったので石井先生の授業は緊張感はありましたけれど、ワクワク感はありましたね。答えられた時は嬉しかったです。あとは夏のマンスリーですかね、４位取った時はうぉーっ！てなりましたね。俺いけるかなって思いました。

### 質問できる環境があるのは大きいです。ささいな質問も答えてくれます。

高校の授業を受けて、**代官山** *MEDICAL* の授業を受けると、全然違うなって思いますね。内部進学の人が多かったし、40 人相手の学校の授業とクオリティーは違います。学校だとなかなか教員室に行って質問しづらいじゃないですか。入りづらい感じがして。ドアを引くだけなのに勇気がいるみたいな。本当にできないやつはできないと思います。だから学校だとできる友達に聞いて、教室内で解決みたいな感じになってるんですけど。**代官山** *MEDICAL* では質問できる環境があるのが大きいと思いました。本当にささいな質問でも、答えてくれますし。

マンスリーテストは、終わった日に一応問題見て、もうちょっとで解けそうだった問題を確認して、無理そうな問題は先生に聞こうかなって。答えもらってどうしても納得いかなかったものは先生に聞きに行ってました。

### 苦手だった数学が一番伸びた。とにかく量をこなしました。

**代官山** *MEDICAL* に来て、一番伸びたのは苦手だった数学ですね。最終的に埼玉の試験で、自分的にも合格点行ったんじゃないかと思えるくらいできました。最初の頃はあまりにもできなくて、学校の試験では低くはなかったんですけれども、トップとかそういうレベルでもなくて。やっぱ数学は苦手なんだなと自分でわかってきて。本当に苦手だったのでずっとスタンダードでやってました。石井先生に、直前にスタンダードでいいの？ハイに上がんないで大丈夫？って言われたんですけれど、ハイに行っても授業に追いつけないと思って、スタンダードで基礎だけバーッとやってました。

一番辛かったのは、やっぱり数学ができなかったんで、やってても、一度やった問題でも途中までは分かるけれど、そこから先が分からないっていうのが多くて。詰めが甘いなと感じて落ち込みましたね。先生にも「そこは何回も何回もやらないと覚えないからそこはしょうがないよ」って言われました。証明問題は問題見てバーッと言えるくらいにならないとと思ってて。あと、流れが決まっているものは完全に頭に叩き込んでいました。

### 河合の模試が受験の練習になった。あれは、本番じゃなくてよかった。

受験会場で直前までノートを見てました。一生懸命やったやつとかずーっとひたすら見て、ここは出たらいけるだろうと思ったりして。やっぱ受験会場に行くとビビりますよ。現役で、今まで受験したことなかったんで、圧倒されちゃうし、変な人いるし。埼玉の時はトランプ切ってるやつがいて。タロット占いかもしれないけれど、シャーってすごい勢いでやってましたね。マジかよって思いました。彼なりのリラックス方法なのかな？って言い聞かせてました。本番でもそれに近い人はいましたが。それはそれで、周りの環境に適応する練習にはなりました。自分ではどうにもできないので。大事なんだね、校外で模試を受けておくのも、経験にはなりますしね。

### 埼玉医科は１学年から医療系の講義があります。

大学はすごい楽しいです。ずーっと勉強というわけじゃなくて、毎日遊んだり、大学はもちろん埼玉にあるんですけど、休みの日は東京に出て遊んだりとかします。東京に行くのには大体一時間くらいですかね。池袋から東武東上線で最寄り駅は東毛呂駅で、周りに本当に何もないですよ。自然か、飲み屋さんかくらいです。**代官山** *MEDICAL* の卒業生は同学年で５人いますね。知り合いがいると心強いです。同学年で**代官山** *MEDICAL* 卒業生の小倉君（小倉朋之君）なんか同じマンションです。

埼玉医科は１学年から医療系の講義がありますね。いきなり解剖をやって…、でもテストがすごい難しくて 130 人中 40 人落ちちゃって。でも再試があるのでまだ大丈夫なんですけど、最初から 40 人再試はインパクトありましたね。僕はギリギリ大丈夫でした。あと第２外国語がないので、英語を徹底的にやりますね。他大学の友達が、フランス語やってみようとかドイツ語やってみようって言っているので、これも埼玉の特徴かなと。

卒業生が語る

# 合格への軌跡 2015年

WAY TO SUCCESS

| | |
|---|---|
| 昭和大医学部Ⅱ期 | 2次合格 |
| 東京女子医科大 | 2次正規合格（特待10位以内） |
| 杏林大医学部 | 2次合格 |
| 東海大医学部 | 2次合格 |
| 埼玉医科大前期 | 2次正規合格 |
| 岩手医科大医学部 | 2次正規合格 |

## 家族も一緒に苦しんでくれた。感謝です…。

昭和大学医学部進学 平菜月さん（青山学院高等部卒）





### もう前に進むしかないと心に決めた。

指定校推薦で落ちて浪人する事になって、**代官山** *MEDICAL* で薄先生の体験授業を受けて凄い良い先生だなってめっちゃ感動して、もう即入学しました（笑）。先生は教え方も凄く上手だし生徒の事を一人一人思ってくれる所もいいなと思って。体験授業の時に推薦の凄い悔しかったこととか少し話してちょっと泣けてきちゃったんですけど、もう前に進むしかないよって薄先生だけが背中を押してくれて、人間性としてもいいなって思って。**代官山** *MEDICAL* がいいかなって思いました。

### 心配性でいつもメンタルがやばかった私を支えてくれた。

私、凄い心配性で、物理が本当にできない時期もあって精神的に維持していくのは大変でした。事務の人に相談したり先生たちに激励してもらったり、物理はとくにやらなきゃ始まらないって言い聞かせて何も考えずひたすらペンを動かして乗り越えてました。物理の寺澤先生についてよく質問してました。奇抜だけど本当にいい先生だったと思う。心配しなくても受かるよって入試の直前に言ってくれたり、あんまりそういう事言ってくれるイメージ無かったからより一層安心できました。
事務の人にもいろんな事をぶちまけたけど全て受け入れてくれて、大丈夫だよって、精神的な面で凄く支えてもらいました。とくに石井先生は一人一人のことをよくわかってらして、女子医の試験が終わった後、私自身受かっているかどうか心配で先生に相談したとき、「平さんは、女子医の正規絶対に来る」と言っていて、内心では本当かなと疑っていたのですが、本当に正規、しかも特待で受かったので、石井先生ってすごいなと思いました。「平さんは絶対大丈夫だから」って仰ってたのを思い出してきて私いけるかも、って思えたのが昭和Ⅱ期の前日で、それが合格できた要因の一つかなって思います。

### 数学が断然伸びた。

断然、数学！現役の時は偏差値55くらいで今回は安定して65くらい。
私は薄先生一本だったから先生に言われたことを着実にやっていったら出来るようになりました。問題をがむしゃらにやるんじゃなくて解き方やパターンを覚えていったら伸びた気がします。薄先生は最後らへん数学安定してきたって仰ってくれて、数学で3位取った時は自分でも凄いなって感動してやれば自分もできるんだなって思って。薄先生ももう少しで1位いけたよ！って。惜しかったなぁって思います。他の科目もなんだかんだ安定していたけど、私が思う以上に先生は私が出来るみたいに言うから最初は何でだろう嘘だって思ったけど（笑）、実際入試を終えたら少しはそうだったのかなって思えました。化学は現象が分かると面白かったし、先生たちの授業も楽しかったです。節田先生はいろんな事知っていて大学でやるような所まで突き詰めてやってくれたから尚更好きになったと思います。ぽろっと大事な事を言うからへーそうなんだ！みたいな。記憶に残りやすかったです。
私、英語をずっとフィーリングでやってて**代官山** *MEDICAL* に入った当初は接続詞とか関係代名詞も分かってなくて。石井先生の授業はそういう言葉が連発するから分からな過ぎて先生に質問に行ったりして、その時初歩の初歩から教えて下さったので英語も奥深くまで読めるようになったと思います。なんだかんだ出来てたんですけど、フィーリングに頼ってたから日医とかの難しい文章は解けなくて。記述が出来なかったので、センターなら出来るんですけど日医、昭和、慈恵とかの奥深く読んで記述する問題は出来なかったです。偏差値はいいけど医学部には受からないっていう感じで。なので**代官山** *MEDICAL* に来てから文法とか語法とかちゃんとやって、そういう問題が出来るようになったから英語も伸びたと思います。
石井先生は去年とか一昨年の生徒とかの話を例に出して話すので、あの先輩に追いつけるように頑張ろうって励みにしてました。

### 他の予備校と代官山 *MEDICAL* は全然ちがった。

「全然違いますね。他の塾とかも行った事ありますけど、**代官山** *MEDICAL* はアットホームというか生徒一人一人を見てくれてるなってとても思います。勉強環境も整ってやりやすかったしここじゃなきゃ伸びてないかも。他の大手とか行った友達の話を聞いてると後半くらいから行かなくなってくるとか言うけど、ここじゃそんなの考えられないからそういう面で本当に良かったなって思います。」
まわってたと思います。私、結構負けず嫌いで WT も良くないと気が済まないから良い点数取りたい一心で復習してました。**代官山** *MEDICAL* は定期的にテストがあるのが良かった。私の場合、テスト無くていきなり入試ってなるとメンタルが…（笑）。準備試験の積み重ねで今に至っているので本当に有り難かったです。

### 受験に対する意識を変えることができた。

4月に入ってからは、現役時代と比べて意識がかわりましたね。現役の時は内申書を上げようと思ってたから学校の勉強に力を入れてて受験勉強ではなかったし、心構えからして受験をなめてた気がします。**代官山** *MEDICAL* に来て周りのレベルの高さにびっくりして逆にこれじゃ私受からないんじゃないかって思って。メンタル的にも勉強面も朝から晩までやるようになったから変わったと思います。勉

強教え合ったり過去問やったり、足立光ちゃん(日本大学医学部進学)とかと起こし合ったりとか皆で協力して医学部合格しようって雰囲気が2号館にはあって楽しかったです。高校だと附属だから皆附属大学に進学する中、自分は外部受験で医学部進学するって言いづらくて。だけど予備校では皆で医学部目指そう旧設行こう、って話し合ってたのは良かったなぁって思います。

### 2号館は互いに意識の高い人が多くて刺激になった。

2号館は仲間が頭良い人たちだったから勉強面ではめっちゃ刺激になったし焦りました。足立ちゃん(日本大学医学部進学)と朝起こしあって協力してここまでこれたかなって思います。友達と休憩中にご飯食べてる時も大学の話とかしてたし、牧野ちゃん(東京女子医科大学進学)、足立ちゃんとここの大学の過去問なんだけど、とか。足立ちゃんも化学得意だったからここ分からないんだけどって話したり。あと野崎君もお互い物理苦手だったから話したり。皆で合格しようってよく休憩中は話してましたね。12月までは夜型の生活でした。23時半まで家の近所のカフェで勉強して、それから寝る準備してって生活してたんですけど、12月のMTがめっちゃ悪くて本当にヤバいと思ってそれから毎朝5時半に起きて**代官山** *MEDICAL* に6時半には着いて、家についたら即寝てました。今思えば朝型の生活をずっとしていればよかったと思います。それ以降は朝を競い合って早起きし、野崎君(東邦大学医学部進学)と誰が一番早く来るかって時々競ってました。

### 三浦先輩に憧れすぎてアカペラ部にはいりました。

三浦瑠衣子先輩(昭和大学医学部4年)は3月に補欠まわってきたっていう同じ境遇だって石井先生から聞いていたのでめっちゃ親近感湧いて、新歓の時に話して凄い優しい先輩で良くしてもらってます。部活は三浦先輩に憧れすぎてアカペラ部に。自分が歌いたいっていうのもあったし三浦先輩もいるし、新入生の5人に1人はアカペラ部に入るんですよ。そういう面でも魅力的だったので入部しました。昭和の寮生活は思ったより楽しくて毎日が修学旅行みたいな(笑)。他学部同士の交流が結構盛んで色んな所に遊びに行ったり、将来医療人としてやっていく上で他学部からの情報も得れるし、結構刺激にはなります。洗濯、掃除を自分でやるから自立できるようになったかなと思います。授業も1年生はめっちゃ緩くて遊べ〜っていう雰囲気流れてるからやりやすいし、昭和の医学部は優しくて庶民派な子が多くて自分には合ってたかなって思います。」

昭和は大手予備校出身者が多くて、**代官山** *MEDICAL* ほど面倒見が良いわけではないから、自分で参考書選んで自分で何周もやってたみたいで…。その点、私は言われた事をやってたからそういう面では大変だなって思いました。私は基本的に**代官山** *MEDICAL* のテキストと先生からの課題くらいしかやってないです。物理は先生から指示のあった重要問題集とか良問の風もやってました。それで成績も上がったから正しい判断だったなと思いました。」

### 二次試験対策ほんとに頼れました。

対策はよかったですよ。石井先生の面接対策はみんなの前で行うので、みんなの様々な意見を聞いて、この発言は使えるなっていうのを参考にしていました。また、柴田先生には昭和の対策の時は、昭和に関する資料を頂いたり、書いた小論文を見て下さって結構面倒を見てもらいました。情報戦でも勝てたと思います。

### 家族も一緒に苦しんでくれた。感謝です…。

絶対上位校しか、っていう気持ちがあったから負けたくないっていう気持ちはありましたね。出来れば上位校に行きたかったので、女子医も特待だったけどできれば行きたくなくて…、3月20日に昭和の補欠が回ってきた時は家族で号泣して、やっときた！って。それが感慨深くて頑張って良かったなって思います。両親もずっと応援してくれて、両親には本当に感謝の言葉しか出てこなくて。私が毎朝緊張しちゃってTOCに行くのも母と一緒に行ってもらって、父も昭和Ⅱ期の結果が出るまでずっと信じてくれて、家族の支えは本当に大きかったです。

## 大学のほうも、結構大変です。

中間テストがやっと終わったんですけれども、三週間後に期末テストがあって、休みが一週間ちょっとしかないので、大変ですね。授業は、…つまらないです(笑)。比べちゃうのはいけないですけれどね、**代官山** *MEDICAL* の授業が楽しすぎた、ん？、です(笑)。節田先生の授業を受けて、テキストの復習をやっていれば大丈夫だと思えたので、受けていて一番楽しかったです。そうするとマンスリーテストがだんだん伸びてきました。化学が点数の得点源とはなりましたが、やっぱり一番伸ばしてもらったのは英語ですね。1浪目の時は、全科目60越していません。全部E判定。物理が一番よくて59とか、英語は53、数学も55くらいですかね。化学は57、58くらい。2浪人目の第3回の河合記述の模試判定で、全体でA判定出て、わーってビックリしました。一年で変わるなーと思いました。たしか、全体で偏差値66、67くらいに上がったかな…。英語は去年53で、夏休み明けの河合で69で、ほんと伸びましたね(笑)。

## 一昨年とかなり変わった、メンタル的にも…。

1浪目の時は、横浜の医系予備校に通ったんですけれど、2浪目になって、これはやばいぞ、ってなって、親も真剣に予備校探しをしてくれてました。ここに来る前に渋谷の別の医専予備校に行ってお話を伺っていたんですが、その後に親が他の塾も見ていて、それで**代官山** *MEDICAL* の話が出てきて、一回自分で見てきたらどうだと言われて見に行ったら、親身に話をしてくれて、この塾だった伸びるんじゃないかなと思って選びました。いざ入ってみると、1浪目の予備校と比べて断然、先生はこっちの方がためになったし、面白かったですし、分かりやすかったです。ここに入る理由として、夜間指導も毎日1つあったので、そこで先生に見てもらいながら復習出来るのは貴重だなと思いました。実際、英語の文法とかは同じ問題だとしても、他の選択肢が何が違うのか意識して解き直せるのがすごいよかったです。数学も解法の確認になるし、あと、夜間と昼間の授業で先生が違ったら、新しい解法を夜間で教えてくれたりとかもあったのですごいよかったです。
問題を解いている時は静かにしていましたが、自分の集中力が切れちゃって、周りや隣の人が集中力が切れちゃうとちょっとだけ話していましたが、それ以外は結構やれたと思います。

## 朝がんばりました。ゼロ限を作って色分けしてそこで何やるのか、決めてもらったりしてました。

前期はできるだけ8時半にきていましたけれど、後期に入ったら7時半から8時の間に来られるようにはしてました。朝一コマ確保していました。できるだけ一定になるように来るようにしていました。予定表作るのをおすすめされて、それでゼロ限の枠を作って、そこを埋めるために来るようにしていました。結構、埋めるのが楽しくて。今日できた、みたいな。四科目、色とか適当に付けてカラフルの方が面白いかなと。先生との距離感とかが近くて質問しやすくて、何回も言ってますけれど授業がわかりやすかったですし、復習もしやすくて、成績の伸びにつながったと思います。また、やることを明確にしてくれたのも大きかったですね。相談したら、的確なアドバイスを頂けてそれをこなしていました。

## 一番苦手科目は英語、一番好きだった科目は物理。それぞれ1コマ、マンツーマンをつけました。

去年までは英語が一番苦手で、逆に一番好きだったのは物理です。物理が去年一番できていた分、少しは自信を持ってやっていたんですけれど、マンスリーテストで順位表に載ったり、落ちたりを繰り返していて、去年できたから大丈夫だろうと思って、夏まではマンツーマンを取らず、集団授業のみでやっていたんですけど、あまりにも成績が安定しなくて、寺澤先生のマンツーマンを取りました。テキストの復習とかやれてなくて、予習ばっかりだったんですけれど、名問の森を去年からやっていたんで、続けてやっていたんですけれど、ちょっと難しくて、ちょっと違うかなと思いました。それで基礎的なプリントで確認しながらやっていたら直前期なのに結構ボロが出てきたので、それを一つ一つマンツーマンで直しながら合格点に達するように仕上げてもらいました。
英語は丸山先生に単語、熟語の例文暗記をしろと、口酸っぱく言われて。毎週のマンツーマンの時に単語テストもあったので、電車内で単語帳やって、熟語もやりました。丸山先生のマンツーマンのスタイルは本当に基本的なところからスタートしたのでそれが大きいと思いました。まずは語彙力上げて、文法系も強化して。キャッチアップから始めてステップごとに全部やって。他のマンツーの人の話を聞くと、ちょっと心配になりましたけれど…。あっ、あと音読ですね。石井先生におすすめされたのは、寝る前に全速力で3回読むことです。秋ぐらいまでは実践してて、最後の方は時々になっちゃいましたけれどもやっていました。音読に使ったのは石井先生のγですね。あのくらいの長さがちょうどよかったので、それを音読していました。音読することで、日本語を経由する必要がなくなっていくということでやっていました。実感できたかどうか聞かれると怪しいですけれども、確実にプラスにはなっていたと思います。石井先生の授業は緊張感があって、予習はしっかりやっておかないと、当たった時にまずいなと思って、辞書を引き倒して細かいところまでチェックしていました。あやふやな単語があったら絶対調べていました。最初の方は当ててもらっていて、2学期から2号館に来たら頻度は下がりましたけれど。

## 復習って完璧は無理だけれど、それでもやっていた。

石井先生に、君は100パーセント目指してやっても、絶対に100パーセント達成できないから120パーセント目指してやった方がいい、と言われたので、とことんやろうと割り切ってやっていました。復習って完璧は無理だけど、それでもやっていたって感じです。**代官山** *MEDICAL* は、最初のうちから授業がびっしり入っていたので、その復習をしおくれると大変だと思って、とにかく夢中でやっていました。当初の目標としてはM2に上がることだったので、それに向けてひたすらやっていました。もう今年で最後と親からも言われていたので、その自覚を持って一日の勉強を大切にしようと決めていました。一昨年と比べて授業数はずいぶん増えたのでとにかく夢中でした。一昨年は　50分で3コマ、英語、英語、英語と続いた後に、ちょっと空いて数学が3コマみたいに、一日2教科でした。多くて3教科でしたので、授業数は全然少なかったですね。
2浪目の4月の時点では**代官山** *MEDICAL* のMクラスでスタートしたいと思っていたんですが蓋をあけてみるとA1スタートで、結局夏前のマンスリーもできなくてA1に留まって、あーっ、って思っていたので夏明けたら絶対に上がりたいなと思っていたので、そこまで必死にやっていました。齋藤剛熙くん(日本大学医学部進学)　と仲良くしていたので、マンスリーテストとかで負けたくないなと思ってて、A1で同じスタートだった人とかに勝ってみたいなと思ってやってました。

## 杏林が大きかったですね。気持ち的に楽になりました。

結局、一次受かったのが岩手、金沢、杏林、昭和、日大ですかね。受けたところはだいたい受かったって感じで、日医と慈恵と聖マリアンナ意外ですかね。杏林が大きかったですね。気持ち的に楽になりました。最初は落ちたもんだと思っていたので、すごいうれしかったです。
面接も毎回慣れて来たって、感じで…、石井先生の対策の効果は大きかった(笑)。石井先生が過去の傾向からこういう質問あるけどどう？って聞いて適当に誰か当てて、答えるという流れでした。人の意見聞くと、その意見もらおう、って思いました。本番でとっさに本番で聞かれた時とかも、他の人の意見がぱっと浮かんで答えられたりしたんで、みんなでやるのはけっこう効果的なことだったんだなと思いました。

## あっという間の1年だったなー

あっという間に毎日が速かったなーという印象です。あっという間に毎日が終わってその繰り返しだったですね。とにかく分かりやすい先生多かったなっていう印象が強くて、どの科目にも自分の好みの先生がいたのがよかったです。石井先生とか自分の過去の話だったり、受験情報だったり、適度に気分転換ではないですけれど、話を交えつつやっているのもあると、結構授業に集中できたりとか、そういう切り替えができてよかったです。やっぱり余計なことに手を出さないほうが絶対いいと思っていて、テキストをやれば、僕は受かったので…。僕の実績では上位校には受からなかったですけれども…先生の言うことを聞いてしっかり復習すればいいと思います。周りとやることが違っても、別に無視して、やればいいと思っていて、数学とかは僕は赤本は一切やるなと言われていたので、周りがいくらやっていても気にせずにいたし、物理も一緒に過去問解こうって友達に言われたが、まだプリントの段階だからと断って自分のやっていることを貫いてやっていましたね。
大学に行って**代官山** *MEDICAL* の日大の先輩方に声をかけてもらって、部活の勧誘とかで、新歓の時にいれば挨拶をしました。ゴルフ部だと岡本さん(日本大医学部3年)とか、入ったら一万円やるとか言って(笑)…。入らなかったですけれども(笑)。で結局、準硬式野球に入ってます。中学3年間野球をやっていましたから…。勉強のほうは専門的な内容とかまだやらないですけれど、実習とかで心臓マッサージとかAED使ったりすると、医学部入ったと実感しますね。少しずつ興味が湧いてきました。斎藤剛熙は社交的なんであっちはすぐに溶け込んでましたけど、僕は最初人見知りなんでちょっと時間かかったかなって気がしなくもないですが…。だいぶ話す人も増えて楽しくなってきたかなって感じです。

卒業生が語る

# 合格への軌跡 2015年

WAY TO SUCCESS

| | |
|---|---|
| 杏林大医学部 | 2次合格 |
| 愛知医科大 | 2次正規合格 |

## 好きな先生を取れるので、マンツーはとても有効な勉強方法だと思います。

**杏林大学医学部進学 佐藤遼君（新潟明訓高校卒）**

### 一浪目の時にここに決めたのは、合格実績。

現役のときにここに来る前は予備校には通っていません。地元だと代ゼミしか見当たらなかったですし、塾に通っている人はほとんどおらず、参考書で勉強している人がほとんどでした。ここに入って感じたのは、他の予備校に行ってないのでなんとも言えませんが、自習室は大きいと感じましたし、自分の机があるのはよかったです。一浪目の時にここに決めたのは、合格実績もあるし、実際ここで学んで成績が伸びた実績があったからです。また、先生方も生徒に対して真摯に向き合ってくれました。お前はできないとはっきり言ってくれましたし、それは嬉しかったです。できないことを知ってくれているし、頑張らないといけないことも口で言わなくても態度で示してくれていたので。ここにきてよかったです、結果もでましたし。

### アドバイス通りに基礎を徹底して、難しい問題に手を出さないことを徹底しました。

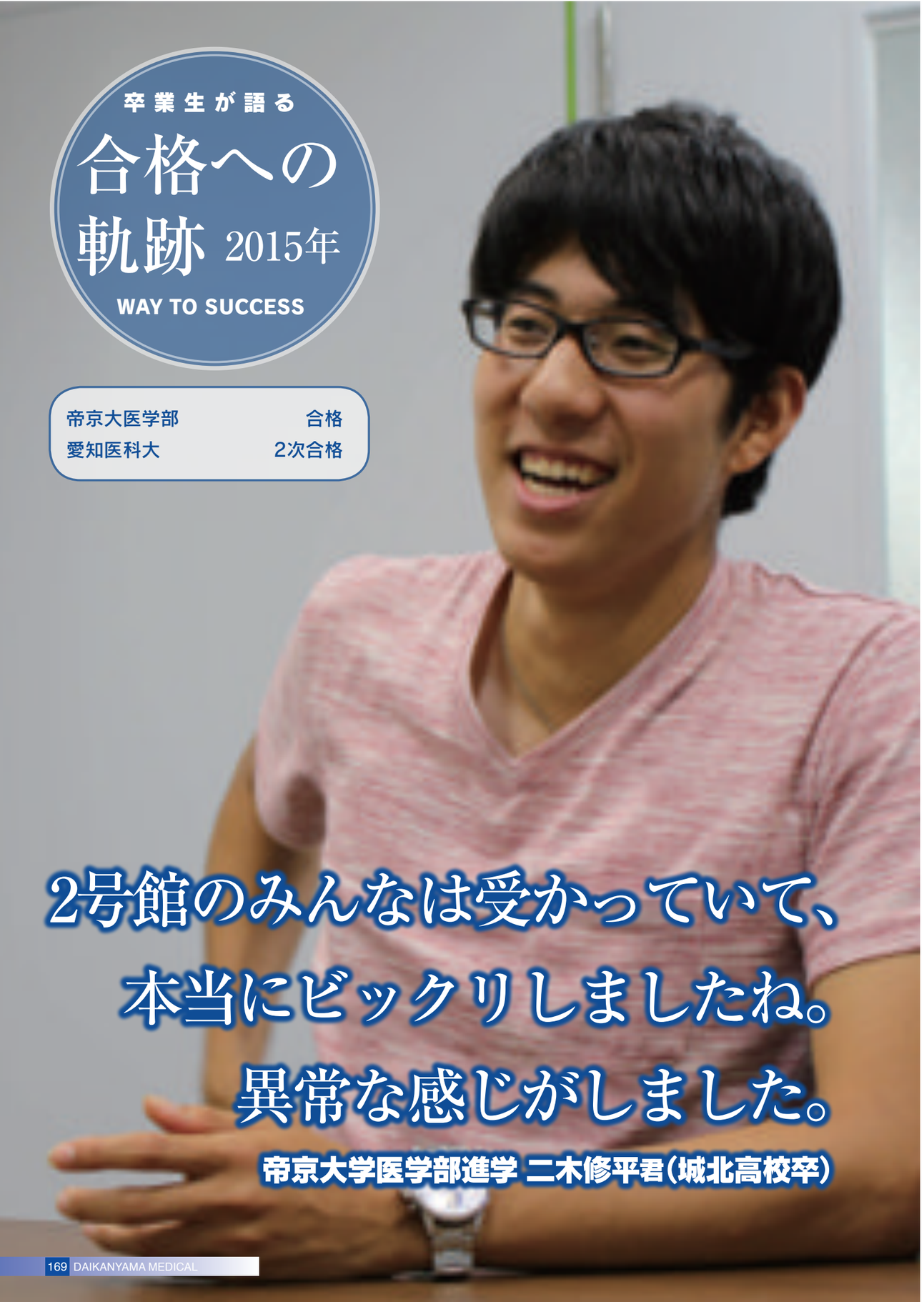
一年目は高いところを目指していましたが、正直二年目は同じ勉強方法だと厳しいと言われました。まずは英語と数学をやれと、その二教科は継続しないと伸びないからと言われました。夏の終わりまでは理科は1時間ずつ、残りは全部英数にあててました。石井先生には厳しいことも言われました。日医は厳しいだろうって言われたので、逆に簡単な問題を落とさないような勉強をしないと駄目だよと言ってくださいました。授業以外の学習時間は一時間と決めていたので、テキストが完璧に解ける感覚だったり、簡単な問題集が確実に解けるように意識してましたし、予習の段階でも意識していました。簡単な問題を落とさずできたから、新設の大学は合格しましたが、旧設は駄目でした。でも、納得のいく結果だったと思います。アドバイス通りに基礎を徹底して、難しい問題に手を出さずに過ごせたのが勝因だと思います。

### 当てられる授業は好きでしたね。

マンスリーに関しては、一年目は200点までもう一歩といった程度でした。二年目は難しい問題をあまり手をださなかったこともあるかもしれませんが、一番高い時は260くらいいきましたが、平均して220から230くらいでしたかね。マンスリーが終わった後は、予習や復習をやっていました。化学の授業では二回に一回くらい当てられました、予習をしていかないと当たるけれど、毎回分かりませんと答えるのも意味がないので、頑張ってこなしていました。たまに話してくれる余談も面白かったですし、僕をいじってくれるのも楽しかったです。数学の啓寿先生は、解き終わった後に持っていくと、ここはこうした方がいいとかアドバイスをくれて、授業で話せなかったことなど時間をかけて教えてくれました。あと、典先生に問題を解く時になんでそう考えるのですか？と聞くのが好きでした。当てられる授業は好きでしたね。とにかく基本ばかりやっていましたね。疲れた時は2号館の裏に木がある公園で休憩したり、今だから言えますがご飯食べてスペイン坂でラジオ聞いて帰ったりして気分転換していました。友達は誘わず一人でいましたね。食事の時間もみんなとずらしてました。たまに昼食時に間瀬（間瀬泰我君：大阪医科大進学）としゃべって、その後自習してました。間瀬も基本一人だったから、彼の存在は大きかったですね。

### 好きな先生を取れるので、マンツーはとても有効な勉強方法だと思います。

マンツーは、英語と物理だけ取っていて、小澤先生の物理と英語の丸山先生取ったりしていました。一学期は丸山先生のプリントをやっていて、二学期は過去問でいく感じでした。簡単なところを、6割7割取れればいいという感じでした。丸山先生は僕ができないのを知っていたし、教える事じゃなくて、量をこなして成績が少し上がればいいというやり方でした。劇的に伸びる感じではなかったので…。僕自身は授業でやったことを確実に復習することが成績の伸びにつながると思っていたので、A4くらいのノートに長文を貼って、お風呂で読んでいました。2周くらいやりましたかね。お金がかかっても受かることが大事だと思うので、いかに早くゴールするかを考えると、好きな先生を取れるので、マンツーはとても有効な勉強方法だと思います。



卒業生が語る

# 合格への軌跡 2015年

WAY TO SUCCESS

| | |
|---|---|
| 帝京大医学部 | 合格 |
| 愛知医科大 | 2次合格 |

## 2号館のみんなは受かっていて、本当にビックリしましたね。異常な感じがしました。

**帝京大学医学部進学 二木修平君（城北高校卒）**





### 代官山は講師室がオープンで非常に質問しやすくてよかったです。

二年間ここで勉強する前は大手S台に行ってました。自習室はあるのですが、席取りが必要でした。席取りに並ぶこともありました。取れない時もあるんですよ、取れなかったらスタバなどに行くか、どこか…、しょうがないと家に帰っちゃたりしてました（笑）…。代官山の自習室は結構自由に使えたことと、よくも悪くも友達が多かったのがよかったです。なんかレベル別で自習室がメンバーが違うのもなんかよく計算されているというか…。目標が同じ仲間がいるのは刺激になりました。駿台の講師室は入りづらかったです。駿台だと講師の先生は校舎移動かなんかですぐにいなくなるってこともありましたし。代官山は講師室がオープンで非常に質問しやすくてよかったです。

### 基本がしっかりできて、点数の取りこぼしが減って点数が伸びるものだと思います。

化学は伸びましたね。セミナーやって安定しました。やるのは、夏では遅いです。みんなが受験終わって、のんびりしている時期にやるくらいでないと。一学期始まってからやってると、なかなか終わらないですよ。一日何問って感じじゃなく、一週間で終わらせろって言われました。出来て当然なんだけれど、あれできれば偏差値60はかたいんですよ。そっから授業でプラスアルファしてもらう感じがベストだと思います。一浪目は数学ができると思っていましたが、点数が出ていませんでした。難しい問題を解きたかっただけかもしれないです。確実に点につなげることが重要だと感じました、小問で点を落としている場合ではないと。基本が重要だと言ってもなかなか分かっているつもりでも実際はわかっていなかったかもしれません。基本がしっかりできて、点数の取りこぼしが減って点数が伸びるものだと思います。

### 2号館のみんなは受かっていて、本当にビックリしましたね。異常な感じがしました。

僕は二浪していたので、二浪目の時は模試やマンスリーでは緊張はほとんどないですね。試験会場にはほとんど須長（須長幸嗣君：杏林大医学部進学）と行っていたんですよ。入試の時期は気持ちに浮き沈みはありましたね。一番沈んだのが杏林を落ちた時でしたね。杏林落ちて、2号館のみんなは受かっていて、本当にビックリしましたね。異常な感じがしました。その次が、須長が補欠でいい順位を取っていたのを知った時ですね。須長マジか？って思いました。それが二回目の沈んだ時期ですね。愛知の二次面接に行くくらいになったら、俺は別にって気持ちになっていました。愛知はきれいだけれど、杏林汚いし、って様々な理由付けて自分のモチベーションをあげていました。試験時はメンタル非常に重要なんで。

### 得意だった数学も、別の解法をいろいろ教われたことでさらに興味をもてた。

数学はみんないい先生でした。自習の時間も、何をやればいいか聞いていました。一浪の時から典先生が好きだったので、困ったら典先生でした。俺は教わった記憶より、自分がベストだと思った解法の上をいける解き方を教えてもらいました。この問題ならこっちの解法でしょ、みたいに。そのおかげで興味も持てました。物理は最後小澤先生に頼った面が大きかったかな、癒し系の感じが好きでした。あんなにおっとりしているのに、レスポンスが早くて、たぶん過去問もすごい解いているんだと思いました。受験直前の時に帝京の過去問やったんですよ、特殊な感じで3時間で3科目解きました。物理をやったら、思いのほか、あれっ、これって間違えられないんじゃない？って感じになってちょっと焦っていたんですけれど。英語は、押田先生にはいろいろとお世話になりました。厳しい先生でした。俺は特別英語できなかったんで、厳しくしてくれて助かりました。一浪目の頃は高橋阿先生でした、いっぱい問題用意してくれて、とりあえず解くみたいな。先生が英語を読む習慣を身に付けてくれたのがよかったのかなと思います。写経はやってました。一浪の時も二浪の時も。石井先生の授業は、この上無い集中でしたよ。生徒に合わせて当ててくれるので、ありがたかったですね。わからないところを当てられることもありましたね。二浪目になってウィークリーで一番変わったのが、満点取って当たり前って思うようになりましたね。マンスリーは時間との戦いの部分もありましたが、ウィークリーは時間もあって丁寧にやって点にこだわってましたね。ウィークリーが返ってくると大変でしたね、なんでこれ違うの？みたいな（笑）。みんな自信もって解いてるので。一浪の時は点数が悪いと若干諦めていましたが、二浪目は間違えたところもしっかりカバーして、そこで復習したといえばしましたね。ウィークリーの間違いもすぐに見直すようにしましたね。一年目の代官山は厳しかったですが、二年目は2号館だからかみんなやる人ばっかだったので自分も頑張ってやりました、必要な厳しさだったと思います。予備校時代も朝が早く、そのリズムは今も続いていて、一限からしっかり出ています。

卒業生が語る

# 合格への軌跡 2015年

WAY TO SUCCESS

## 日本医科大学進学 井上佳弥乃さん（鴎友学園女子高校卒）

| | |
|---|---|
| 日本医科大 | 2次合格 |
| 東京医科大 | 2次合格 |
| 日本大医学部 | 2次正規合格 |
| 岩手医科大医学部 | 2次合格 |

## 東京慈恵会医科大学進学 井上紗智乃さん（筑波大付属高校卒）

| | |
|---|---|
| 東京慈恵会医科大 | 2次合格 |
| 日本医科大 | 2次合格 |
| 日本大医学部 | 2次正規合格 |
| 杏林大医学部 | 2次正規合格 |

## 東京慈恵会医科大学進学 長岡鈴佳さん（東京女学館高校卒）

| | |
|---|---|
| 東京慈恵会医科大 | 2次合格 |
| 昭和大医学部 | 2次合格 |
| 東京医科大 | 2次合格 |
| 岩手医科大医学部 | 2次正規合格 |
| 愛知医科大 | 2次正規合格（特待） |
| 北里大医学部 | 2次正規合格（特待） |

### Q: 大学に入ってみて大学生活はどう？

井上佳弥乃：部活はダンス部に入りました。日本医科大は、**代官山** *MEDICAL* の卒業生に恵まれてますね。なかでも石橋先輩（石橋祐輔君：日本医科大2年）、權頭先輩（權頭嵩君：日本医科大学6年）と仲良くさせてもらってます。あと鄭さん（鄭知華さん：日本医科大学3年）は特に良くしてもらって頼れる先輩です。英語のクラスは2段階に分かれてます。授業は体育が楽しいです。カリキュラムが変わって1年生から基礎医学が始まるので、まずは留年しないように頑張ります（笑）。

長岡鈴佳：慈恵は現役生が多くてフレッシュな感じです。2浪が浮くとかはなく、メンバーが良いですね。英語のクラスは4段階に分かれてます。部活は女子バレーに入りました。新歓ではナリ（慈明：弟で同じく東京慈恵会医科大1年）が凄かったですね（笑）。**代官山** *MEDICAL* の先輩は金ちゃん（金世奈さん：東京慈恵会医科大学5年）、丹治くん（丹治芳明君：東京慈恵会医科大学5年）によくしてもらってます。

井上紗智乃：大学、楽しいです。バスケ部に入りました（笑）。慈恵は現役と1浪が多くて、今年は全体的にノリが良いって言われました（笑）。慈恵は宿題とかレポートが多くて家で勉強しないと間に合わないです。」

### Q: 振り返って浪人生活は、それぞれどうだった？

長岡鈴佳：1浪目はグループで行動して昼もギリギリまで喋ったりしてたけど、2浪目は時間も皆とずらして一人で食べたりして、生活スタイルを見直しました。辛い時期もありましたけど自暴自棄にならず頑張れて良かったです。生物は大森先生、数学は吉野先生と薄先生でした。M2クラスは雰囲気が良かったです。仲良いけどお互い干渉するわけでもなく、やるべきことはちゃんとやっていたので。

井上佳弥乃：**代官山** *MEDICAL* に来て変わった事は基本的な事を馬鹿にしなくなった事ですね。現役時は姉と大手予備校にいたんですけどずっと上のクラスで難しい問題だけやっていて、でも基礎がないと意味ないなって思って。**代官山** *MEDICAL* に来て基礎の勉強は怠らなくなりました。授業で当てられるのは嫌いじゃなかったです。生物は緒方先生。プリントくれたし質問しやすかった。数学は薄先生でした。M3クラスは仲良いけど、各々の目標に向かって勉強していました。

井上紗智乃：現役時は学校の友達が勉強してないって言っているのを真に受けて、どうせやってもなぁと思って勉強してなかったです。1浪目は妹と大手予備校にいたんですけどなかなか集中できなくて友達と喋ったりしてました。だから**代官山** *MEDICAL* でずっと人と話せないのが辛かった。自分、飽き性なので誰かと話したり外出たいなぁって思っても皆自習室に籠って勉強してるから、そんな人いないし。だからこそやるか！ってなったので良かったです。精神面でもいろいろと成長できたと思います。生物は緒方先生、数学は高橋典先生でした。M1クラスはやるときはやる、騒ぐ時は騒いでやるときはやるといった切り替えが皆上手でした。

### Q: 将来どんな医師に？

井上佳弥乃：そうですね、まだあんまり考えてない…。ちなみに姉は思い切りが良いから外科とか向いてるかもしれないです（笑）。

井上紗智乃：そんなこと、ぜんぜんないから（笑）。まだ特に考えてないんですけど、まずは体力がついていけるように頑張りたいです（笑）。」

長岡鈴佳：わたしの場合は、母がそうなので産婦人科になるだろうなと思ってます。

卒業生が語る

# 合格への軌跡 2015年

WAY TO SUCCESS

| | |
|---|---|
| 東海大医学部 | 2次正規合格 |
| 岩手医科大医学部 | 2次合格 |
| 埼玉医科大前期 | 2次合格 |
| 帝京大医学部 | 合格 |

## 中学、高校と6年間野球の部活一色だった僕が医学部に進学。

**東海大学医学部進学　丸茂正展君（多摩大学附属聖が丘高校卒）**

## 東海大医学部で、今頑張ってます。

大学生活は、月曜と木曜に湘南にあるキャンパスで他の学部と一緒に英語とかの教養科目を受けてます。その他の日の、医学英語とか生物の勉強は結構やりがいがあります。医学英語は、分厚い本に身体の構造とか免疫系とかも英語で書いてあって、それを10人ぐらいのグループに分けられて、臨床の先生と基礎の先生と一緒に、生徒が訳してって他の生徒が分かるように説明する授業で、力を入れてやっています。他の学部と一緒なんで、医学部生はもてるんですか？って聞かれるんですが、僕はモテません。
東海大に入学した時に、学校の設立理由などを勉強する機会があって、「名医よりも良医たれ」って言葉があるようです。勉強後にグループに分かれて良医と名医の違いについて一日かけて話し合ってそれをスピーチするみたいなのがあったんですが、いろんな意見がでました。僕達の班が考えたのは、良医と名医と研修医の違いを話したときに名医と良医は全然別のものだとの意見が出まして、良医という土台があった上での名医だと考えました。まずは、良医を目指すべきだと考えています。技術力は後ほどつけていく感じだと思います。

## 一年目の代官山のパンフを引っ張り出して、「とりあえず一回行ってみよう」となりました。

二浪目の時に、初めて**代官山** *MEDICAL* にきて、その年、自分の中では受かったかなと思いましたが、結局駄目でそれで三浪目の時に、二号館に分けられてよりレベルの高い人たちに揉まれてたので、自分はもっとやらないと離される、負けてしまうと思ったので、三浪目の方が危機感を持ってやっていました。自習や授業もみんなやっているから結構焦ってました。

一浪目は新宿の小さな予備校に行ってました。ここはスタイルが違いましたね。ここは一年で受からせますって感じですが、前の所は塾生に任せるという感じで、自由でした。勉強する人は勉強するけれど、しない人はこないみたいな所でした。一浪目の春にここのパンフレットは取り寄せたんですですよ。詰め込み過ぎてパンクしてしまうんじゃないかと思って、新宿の方に行きました。そこでも遊ばず勉強していましたが、初めの成績が低すぎたから当然駄目で、親と相談して二浪目が勝負だとなって、医学部に特化した予備校を探しました。一浪のときにもらった代官山のパンフを引っ張り出して、とりあえず一回行ってみようとなりました。そこで、石井先生と話してここに決めようと思いました。色々説明してくれたり、親と話しているときに様々な話をしたからここなら大丈夫かなと感じましたね。また、自習室とかの設備もよかったです。

## 一年目は、自分が落ちてみんなが受かった時は悲しかった。

一年目は、自分が落ちてみんなが受かった時は悲しかったですし、一年目の結果が出た時に秋山（秋山真哉君：東京医科大進学）に気を遣われたのがつらかったです。気を遣って話してくれていることがわかって、ああ、つらいなと思いました。二年目は秋山みたいな友達がいなくて、マンスリーで点が取れなかったり、模試で点が伸びなかったりした時は1か月に1度くらいの割合で、1時間くらい話を先生に聞いてもらいました。話すと次の日から行きやすい感じでした。でも、二年いたからよかった部分もあります、頑張った分すごい伸びたと思います。マンスリーで点取れても、点を取れたことは素直にうれしいですが、本当に大丈夫なのか？っていう不安ももちろんずっとありました。
一年目の時は、A3からのスタートで、最初のマンスリーが150点ぐらいで、平均より少し下ぐらいですかね。その年の秋くらいは一回だけ200点超えました。でも、結局だめで…。二年目は、平均して220から240くらいだったと思います、1回くらいは落ち込んだ時もありましたが安定していたと思います。
2号館に行って実力はついたと思います
僕にはこれはぜったいできるという科目がなくて、どの教科もそんなに差がなくテストのランキングの中より上にいたくらいでしたが、河合の模試は英語と化学は70超えていました。そういう意味では得意科目だったのかもしれません。マンスリーだと、めちゃめちゃとれた感じではないですが…。

## 2 号館のメンツはよかった、でもきつかった。

2号館のメンバーはメンツがいいというか、個性がある人が多くて個人的にはいい雰囲気で面白かったです。勉強してるときはしてましたけれど、昼休みとかは普通に話していました。直前期はさすがにピリピリしてましたが。でも…、つらかったことは、そうですね、2号館の人が結構たくさん杏林受かっていて、そいつらは二次の発表でもだいたい正規で、補欠合格の人も確実に回ってくる順位で僕だけ本当にぎりぎりな順位だったのでそのときは本当につらかったですね。また、他の二次の合格が決まってなかったので、また振り出しにもどったのかなと思って、その時はきつかったですね。

## 一次受かったのは、愛知、岩手、金沢、帝京、北里、杏林、埼玉、聖マ。

2年目の時は理科伸びて、数学はマンスリーで2回に1回は載るようにはなりました。英語は、入った時は50くらいでしたが、ここで二年目の時に、あえてマンツー取らなくて、何をやればいいか先生に聞いたら長文を音読でやって、写経や単語をやっていたら夏で66、10月が73くらいになってて。代官山では時間がないから、電車の中で長文読んだりしていました。長文はたくさん読めと言われましたが全然時間がなくて、夏は片面一ページの長文を一日2、3本読んでいたと思います。受験時は英語を得点源にして、理科でも点取っていました。物理は一年目は良問の風で、二年目は名問の森と重問やって、化学はセミナーです。良問は**代官山**の一年目の時に、前年も使っていたので4周くらいしてました。名問の森も3周くらいはしてますかね。苦手なやつは4回くらいやりましたね。あれだけやれば、合格点取れますね。直前期は過去問をやって、わからなければ一学期のテキストを見たりしてましたね。なかったら探したりしてました。数学は一学期のテキストがバイブルでしたね、時間がなかったから他に手が出せませんでしたね。化学は、一番苦戦しました。授業で当てられても答えられないことが多く、逆にやる気になりました。知識系は頑張りました、次答えられるようにと。有機と無機の知識系は、一年目の時に年間を通してやっていたから覚えているところもありましたが、細かいところは時間が経つと忘れるので、日々の繰り返しで覚えなおしてました。結局、一次受かったのは、愛知、岩手、金沢、帝京、北里、杏林、埼玉、聖マですね。正規合格が、愛知で、一週間以内に繰り上げが来たのが埼玉、帝京などでした。

卒業生が語る

# 合格への軌跡 2015年

WAY TO SUCCESS

岩手医科大医学部　2次合格

## 浪人時代と比べると気は楽ですけれど、気を抜けないですね。

**岩手医科大学医学部進学　小関瞬彦君（茨城高校卒）**



### 浪人時代と比べると気は楽ですけれど、気を抜けないですね。

医学部は忙しいですね。レポートとかある週は毎日忙しくて、浪人時代と比べると気は楽ですけれど、気を抜けない日々が続いています。僕は物理選択なので生物の基礎からやる学科を取っています。この先、臨床とかも加わってさらに忙しくなるようです。医者といえば患者の怪我や病気を治す職業なので、技術を身に付けて患者さんがこの先生に診てもらいたいなと思う信頼してもらえる医者になりたいと思っています。

### 浪人していろいろ我慢して1年やり切った。

浪人の頃は色々我慢していましたね、遊びたがりだったので。テレビも我慢して欲求不満になっていましたね。それでも朝はしっかりきていましたね、授業に遅れないように。授業にも真面目に取り組むようになりましたね。高校生の頃は、遊んでばかりでしたが、浪人時代は勉強しかやることないですしね。一年間やり切りました。あと**代官山** *MEDICAL* のマンションが近いし住み心地もよかった。家じゃ全然だったけど洗濯も食事もやり切りましたよ。コンビニ弁当ってのが嫌で出前とったり、スーパーで買ってきてパスタ作ったり。今ってパスタソースのクオリティ高いんですよ、簡単だし。勉強だけじゃなく生活も一人で何とかできるようになりましたよ。誰に言われるわけでもなく後半は結構きつめに授業を入れて自分を追い込んでいましたね。マンツーも色々申し込みましたし、人気の講師の授業をマンツーで受けられる時はうれしかったですね。マンツーマンは、集団授業と違った良さがありますから。これで受からなきゃやばいって思っていました。3月に入ったけど繰上げの連絡がこなくて、また代官山で頑張ろうとやり始めた位に繰上げきて、なんかビックリ。ここよりいい予備校ないと思ってたし実際成績は伸びたし先生達もほんとよくしてくれたんで、フツーに今年は毎回マンスリー載るぞと代官山で頑張る気になってたから。

### マンスリーってほんとなかなか点数取れなくて…。

マンスリーは毎回苦しかったですね。なんでだか毎回全然点数取れませんでした。1回目は、まぁしょうがないかと思いましたが、なかなか取れませんでしたね。自分よりクラスが下の人達の名前が載ったりしていると、“マジでこんなに点数取っているのか？" と刺激にはなりました。負けたくないと思いましたし、ライバル心を煽られたような気がします。採点が戻ってきたらできなかったところは復習しましたね。マンスリーは学校のテストと違って範囲が分からないから全部やるしかないなと思いましたね。本番さながらっていいますか、毎回いろいろなところから問題が出てためになりました。ウィークリー

はしっかり復習になったと思います。やったことがそのままでるので、知識の定着にはなりましたね。ランキングに載ったらうれしいですし。マンスリーでランキングに載るのはなかなか難しかったですね。まったく手に負えなかった問題も多々ありました。計算問題で落としている場合ではないと感じました。赤本を解き始めた頃になかなか成績が伸びなくて、その頃は石井先生や教科の先生に相談しました。

### 初めは A5クラスで、苦手な科目ばかりでしたね。ここにきてだいぶ伸びましたね。

物理の寺澤先生の授業を受けた時のインパクトはすごかったですね。最初、大丈夫なのかなと思いましたが、内容はすごいわかりやすかったですね。他の先生にない何かを持っている気がしました。授業内容も丁寧で、飛ばさないでやってくれるし、初めての印象と違っていました。英語は、岩瀬先生のマンツーをずっととってて、一つ一つ丁寧に解説してくれて、間違ったらそこを教えて、さらにつっこんで周辺知識を教えてくれたので役に立ちましたね。マンツーマンの良いところだったと思います。石井先生の授業は緊張感でいっぱいで、授業の開始前はドキドキで、他の授業よりもしっかり予習をやってたし、中途半端なことやるとやばいと思いましたね。長文は全部訳してみて、周りの人の解答と比べてみたりしてました。数学は、マンツーもそうですけれど、薄先生が分かりやすかったですね。全般的にどの先生も分かりやすかったですね。確率とかは、最初得意だと思っていたんですが、やってみたら全然できなかったので、「全然できません」と、正直に話したら、確率の問題の束をいっぱい持ってきてくれてそれを解きました。岩手医科大学は確率がでるので、

やっていてよかったです。薄先生は授業は分かりやすいですし、親しみやすかったですね。僕はあまり質問はしなかったんですけれど、薄先生には一番多く色々質問しましたね。数学は伸びましたねー(笑)。化学は、節田先生と三上先生ですかね、節田先生は、マンツー取りたかったんですが無理でしたね。集団だけでも分かりやすかったです。授業がすごい面白かったですし、先生の話し方も面白く、板書も丁寧で授業の雰囲気もよかったですね。最初、有機の知識はゼロでしたね(笑)。現役の時は勉強しましたが、コツがわからなくてほぼ点は取れてなかったと思います。節田先生に教わったら伸びましたね、気が付いたら伸びていたって感じです。

**代官山**にきて英語が一番伸びた教科ですね。マンスリーでも順調に伸びていきましたね。A5から始まって無事受かることができました。**代官山** *MEDICAL* で1年やったあとと、現役のときの受験では差がありましたね、純粋に勉強量が違いましたね。高校の時は受験を甘く見ていましたね。高校は結構、医学部ではなく国立に行く人が多かったですしね。医学部を目指していた人はいましたが、情報があまりなかったですし、医学部対策もなかったですね。**代官山**にきて、情報量がすごいなと思いました。聞いたらなんでも答えてもらえましたし、環境も変化してモチベーションもあがりましたね。

### あまり羽目を外さずに、様々な誘惑にも負けずにやれた。

夜間学習は問題解くから復習にもなったし、頻繁に質問できましたし、内容も充実してましたね。弱いところも克服できたと思います。しかし、夜間は一日の終わりごろにやるので、眠いし疲れているしでバテテはいましたけれど、なんとか乗り切りましたね。気分がのらない時の気分転換は、食べて発散させていました。授業が終わった後に出前を大量に頼んだりして。しっかり食べていたからか、体調の方も崩すことなかったです。あと、下のコンビニに行ってちょっと雑誌読んだりして気晴らししていました。校内では、食事時に友達と話したりしてリフレッシュして、授業が始まればしっかり勉強していました。周りの友達の境遇が似ていたから、色々ぶっちゃけて話ができたのがよかったです。あまり羽目を外すことはなかったですね、様々な誘惑にも負けずに。

### いろんな先輩方に恵まれています。

部活はバレー部に入る予定です。新歓で岡本さん(日本大学医学部3年)と話して、仲野さん(日本大学医学部2年)は**代官山** *MEDICAL* で会ってるからちょいちょい話しますし、橋本さん(日本大学医学部2年)も会ったら声かけてくれます。田崎君のお兄ちゃん(日本大学医学部4年)とも話して優しかったです。日大は、**代官山** *MEDICAL* の先輩たちに恵まれてますね。授業はカリキュラムが変わって55分間で8限まであります。だいたい7限で帰れるけど解剖がある日は遅くなったりします。

### A2に入ったのが悔しくて夏には上のクラスに上がろうって勉強してた。

1浪目は自分では真面目にやったつもりだったけど2浪目に比べたら全然勉強してなくて…。2浪目に**代官山** *MEDICAL* に来たけど、生物が一番できなくて最初の MT で20点くらいしか取れなかった。それで A2に入ったのが悔しくて夏には上のクラスに上がろうって勉強して、夏に上のクラスに行けました。1学期最初は8時には登校して帰宅して3時間くらい勉強してました。上のクラス上がってからは7時半に登校して夜も2 ～ 3時間勉強して、12月頃は7時過ぎには登校して勉強してました。

### とくに生物には苦労しました。

私は結構喋っちゃうから喋っちゃった分の勉強は夜必ずやってました。第2回 MT で思ったより点数が取れたから夏はクラス上がりたいと思って、それからは喋るのは止めて、昼食も前半勉強して後半食べるとか休憩時間にちょこちょこ食べたりしてました。

苦手な生物は大森先生に言われるまで資料集開いたことなくて(笑)。まず開かない日を作らないようにしてたくさん書き込んで、ボロボロになるまで使いました。大森先生のマンツーマンは全範囲プリントもらって予習して授業で解説して、分からない所は最初からつめてくれました。1学期で知識系をさらっと全部やって、夏からは過去問使ったりもしてました。特にできなかった考察メインで。

### 1年前は1次突破は1つもなかった。

一番つらかったのは、成人式に行けなかったことです(笑)。地元の高校で3浪したら諦めろって言われて、それを見返したくて、今年合格できて本当によかった。自分の高校で2浪で合格したのは自分だけだったので良かったなと思います。日大までに1次は何個か出たのにその後全然来なくて…。日大の午前中の理科がめっちゃ出来てその時点で「日大はいけた！」と思いました。数学も1問くらいしか間違えなくて。日大は赤本やってる時から理科と数学は解きやすかったですね。1年前は1次突破が1個もなかったから最初来たときは嬉しかったです。

卒業生が語る

# 合格への軌跡 2015年

WAY TO SUCCESS

東京女子医科大　2次合格

## 2浪目の代官山*MEDICAL*は、授業がたくさんあって毎回出欠とられることに驚きました。今年一年で終わりにしたかったし、頑張ろうって。一種の諦めですね(笑)

東京女子医科大学進学　石原 瑶子さん(昭和薬科大学附属高校卒)

### 一浪目は大手予備校にいて勉強したつもりになっていて自習時間は少なくて…。

いま、大学ほんと楽しいです。**代官山** *MEDICAL* から徒歩1分のマンションにいたので意識せずとも規則正しい生活ができました。一浪目は大手予備校にいて勉強したつもりになっていて自習時間は少なくて…。だけどここでは周囲の人も勉強時間多くて、皆が医学部に行くから流れに乗って自然と勉強時間が確保できたので良かったです。朝8時半までに登校はキープしてました。私の場合は早く来ると眠くなってしまうので、だったら来てる時間内で勉強の質と量を上げようと思って…。朝早く来て頑張っている人がいるのも分かっていたので自分に厳しくやるべき量はこなすようにしていました。

### MT を受けることで、自分のできていない単元や項目がはっきり知れて、よかった。

MT は良い順位が出れば勿論嬉しいですけど、たとえ悪くても一喜一憂しないようにどこを間違えたのかっていう所に重点を置いてました。特に理科はここの知識が抜けていたって顕著に分かるので凄く有り難かったです。数学は小問で点数を取るタイプでしたが、MT によって時間配分を意識して受験することができました。全統(河合塾模試)だとやはり私立医学部に特化はしていないので配分もあまり意識できず受験していました。最初の頃は MT を意識しすぎて試験前後一週間どうしようって、それに乱されてた部分もあったんですけど。回数を重ねるごとに生活の一部になって特に準備もせず、受験期みたいに毎回訪れる習慣になっていて良かったと思います。

### 周りが皆、医学部を目指している事実も頑張る原動力になりました。

**代官山** *MEDICAL* の前は大手にいて授業も自習も自由なところにいました。**代官山** *MEDICAL* は授業がたくさんあって、毎回授業の出欠とられることに驚きました。拘束されるのが嫌というより今年一年で終わりにしたい気持ちが強かったので頑張ろうって。一種の諦めですね(笑)。自習時間が限られてる分、優先順位つけて頑張る事ができました。大手だとこれ分かるからいいやって自分で切ってた授業もあったけど、授業に出る事で全部分かってる事なんて無いから、全部出なきゃいけない環境も良かったです。授業に出たり問題集解いていても、やっぱり本番になると解けなかったり、見たことあるのにってなったり。そういう経験を経て言われたことは全部やってみることが大切だと気付いて一年は与えられたものをこなすよう、努力しました。周りが皆、医学部を目指している事実も頑張る原動力になりました。
代官山の思い出になっている授業はたくさんあって、とくに丸山先生は雑談なしでやってくれて良かったです。本当にしないから謎が多い先生です(笑)。生物に対してやる気がなくて最初の頃はあまり頑張れなかったんですけど、緒方先生と金谷先生に見てもらって。難しい事よりも基礎の知識を大事にしてくれて直前期まで続けて、そしたら知識がどんどん広がっていって生物は今年一年で凄く伸びたので感謝しています。数学は平野先生と薄先生に見てもらって、落としちゃいけない所をしっかりやってもらいました。マンツーマンでも私の苦手そうな所を分かってくれてて対策してくれたのでためになりました。英語は丸山先生にお世話になりました。元から英語は好きだったので自習時間も多かったんですけど、それも含めて臨機応変に対応してくれて効率の良い勉強に繋がったと思います。

### 集団の面倒見もよかったですね。

前の予備校も大手にしては集団授業少人数だったんですけど、授業中後ろで映像撮ってたりしてなかなか全部の授業で気軽に質問できる空気じゃなくて。**代官山** *MEDICAL* では授業中に質問解決できたり、その授業にいる生徒の雰囲気によって教える事を先生方が決めてくれたのが、集団でも個々を見てくれてる良さがありました。石井先生って、生徒を怖いくらいよく見てる(笑)。授業中も他の人が答えるところは私も分かってて、自分が当てられた所はまさに分からなくて。個々のレベルとか表情で質問を振るから的確なんですよ。私は元々、人といると勉強できないタイプだったので、外に行くときは本当に休憩したい時だけで自習は全部自習席でやってました。朝早く行かないと席が無いとか良い席とれないとかそういうストレスもないから、自分に合ったスケジュールをもって登校できるし。帰ったら勉強はしなかったので、そういう勉強道具も自習室に置いておけるし凄く生活しやすかったです。

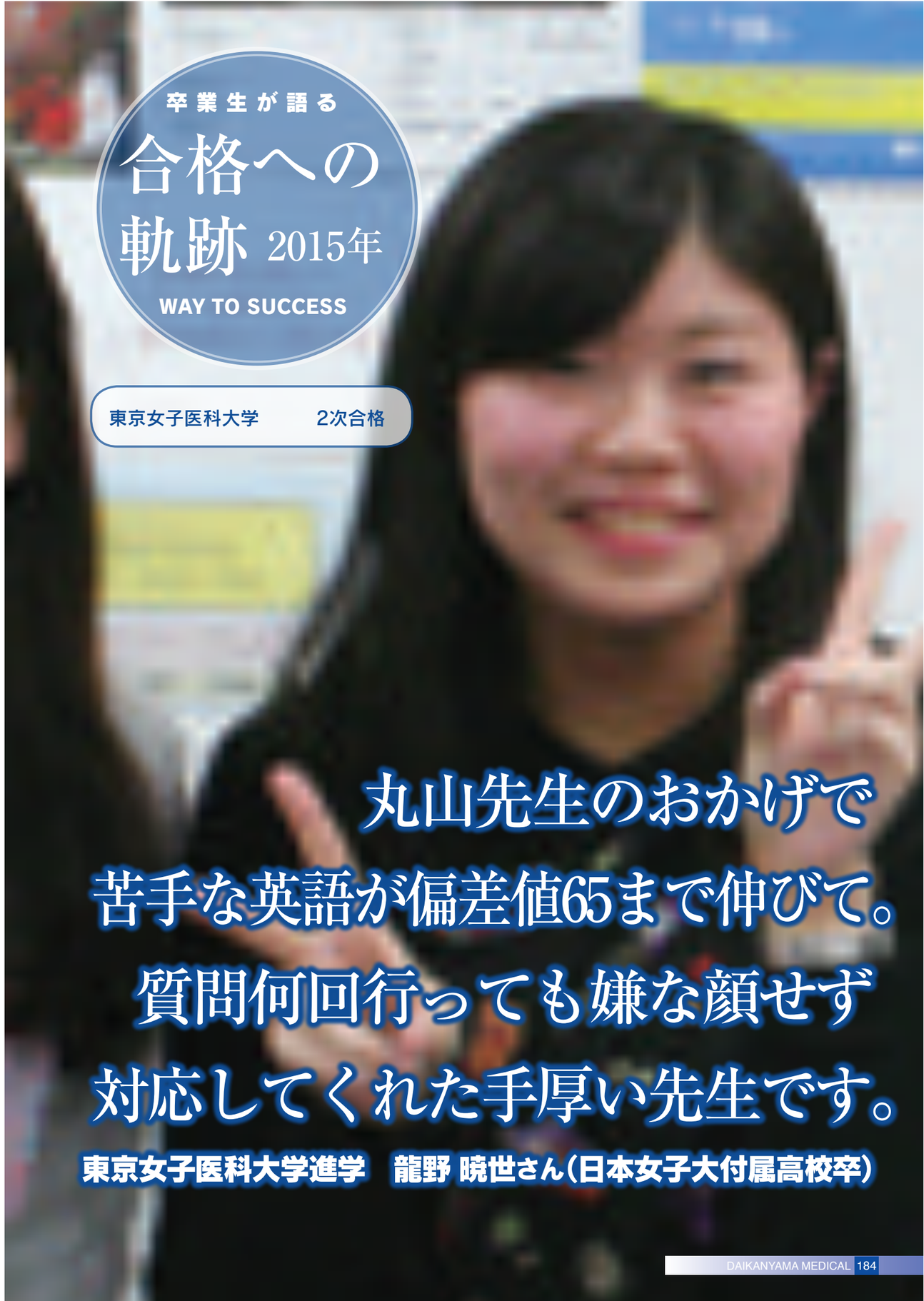
### 夜間学習のころにはいつも疲れてました。

一日の授業が終わって夜間ってなると正直疲れ切っちゃってて。むしろ私はテキストで解いた問題の課題を与えてくれた方が良かったです。一度やってるから出来なかったらヤバいなって思うし、やらなきゃいけない環境が自然とあったので良かったと思います。一緒に授業を受けるメンバーの中で同じ問題を解ける人と解けない人がいるのを身近で感じて、やっぱり出来る人は授業の受け方とか最初の予習の仕方が違ったりしてて。自分も見直さなきゃいけないと思えました。

### 二次対策もとても助かったです。

日程が最初のころは結構大人数で、これが全員受かるわけじゃないって分かってたから緊張感のある中で色々話を聞けて良かったです。一次受かった後に石井先生が面接練習をしてくれて、本番で自信にも繋がって有り難かったです。





卒業生が語る

# 合格への軌跡 2015年

WAY TO SUCCESS

東京女子医科大学　2次合格

## 丸山先生のおかげで苦手な英語が偏差値65まで伸びて。質問何回行っても嫌な顔せず対応してくれた手厚い先生です。

**東京女子医科大学進学　龍野 暁世さん(日本女子大付属高校卒)**

## 自分の自習時間に有意義な時間を過ごせた。

**代官山** *MEDICAL* の前は、他の予備校にいて強制的に長時間勉強させられるのは苦ではなかったですが、前の所は強制的に宿題を出されてそれをやっていくので自分の時間がほぼ無かったです。だんだんダレてきてしまって。周囲は結構居眠りしている人が多かった。**代官山** *MEDICAL* は自分の自習時間に有意義な時間を過ごせたので来てよかったと思いました。何をやればいいのか迷うときは、この時間帯はネクステのここからここまでやれ、とかセミナーのこととかこの単元やってこいとか言われて、個人的に言われるとやれるというか、五十嵐先生から私専用のプリントをもらって、提出したら、先生から「龍野殿への添削結果…（笑）」みたいな感じでやりとりしてました。

大学に通っている今、思うことは**代官山** *MEDICAL* の先生は凄く面白くて授業もっと聞きたいと思う先生が多かったです。ぶっちゃけ大学の授業受けてもあの先生の方が良かったなぁとか考えます（笑）。化学なら節田先生の方が全然分かりやすかったなぁとか。ここではそんな先生ばっかりだから授業も出ようと意欲的になれたんだと思う。私は3浪なので人と比べて受かりづらいって言われてきて、でもこんな辛いのをもう1年も続けたくないと思ってて。周りが皆受かっていくのでこれで終わりにしようという気持ちで一年間必死に頑張ってきました。

## 凄く自信がついて入試に臨めたのでどの教科の先生にも感謝です。

私は英語が一番苦手で今まで避けてきてました。丸山先生の英語が良かったです。先生の所にいったら単語テストしてくれたり、質問何回行っても嫌な顔せず対応してくれて手厚い先生です。それで偏差値65までいって、女子医も未だに何で受かったのか分からないんですけど（笑）、入試でも英語一問も間違ったと思わなかったので先生のおかげです。数学は基礎は徹底的に五十嵐先生に叩き込んでもらって、プリントも専用のものを頂けたので何回も復習しました。数学は皆結構嫌いっていうけど私は好きだったので得点源にしようと思ってました。基礎だけじゃ足りないところは高橋典先生に聞いてましたね。典先生ってたまに何言ってるのか分からない時あるけど（笑）、解法を必ず3パターンくらい持ってるから、これ分からないってなっても次の打つ手があって、分かった！ってなるまで解法パターンを教えてくれました。試験で行き詰った時も典先生の解法を思い出してやってみるとちゃんと出来たので凄い役に立ちました。私の場合、数学以外は全部集団で、数学だけはマンツーマンでやってもらって、どの先生も比較的早めにテキストを終わらせて後期に過去問やりました。東医に関しては1990年から全部やってどの大学も10年分はやったので、計70年分はさらっとやったと思います。おかげで数学は自信の持てる教科になりました。化学は節田先生がよく見て下さって、毒舌だけど本当は凄く気にかけてくれる良い先生です。最近お前ここ出来ないよな、とか授業中でも感じ取ってくれて授業後に行くとアドバイスくれたりして、焦ってその単元やりましたね。生物の大森先生は深い知識を教えてくれたので何でこうなるんだろう？って日頃勉強してて思うようになってきて。生物嫌いだったんですけど自分で図説見て解決しようって考えるようになって、入試直前になったら図説ボロボロでどうしようって（笑）。凄く自信がついて入試に臨めたのでどの教科の先生にも感謝です。

## 友達と教え合うのはいいけどせめて時間を決めてやった方が良いと思います。

3浪の時は自習室に籠って勉強してました。高校の頃行ってた予備校は自習室も毎日違うし荷物重いから移動大変だったけど、**代官山** *MEDICAL* は固定の席だから荷物も置いて帰れて付箋も貼って勉強の計画を練れたし、毎日見る風景が同じだから今日この人頑張ってるなぁとか春あんまりだったのに今頑張ってるとか、負けたくないなと思えました。隣が辻野さん（埼玉医科大学合格）で同じクラスだったのでめっちゃ勉強してるなヤバい～って思ってました（笑）。1年目は周りを気にする所があったけど、気にしても仕方ないし結局勉強は自分でやらなきゃ伸びないなって痛感したので。そうそう、1年目に外で自習してた人みんな落ちたんですよ、自分も含めて。これじゃダメだと思いましたね。学則を改めて見直して勉強法も改善しました。結局受験落ちると痛感するけど、分からない所を友達に聞いて解決してもそれは個人の意見とか偏見であって、やっぱり先生から聞いた言葉を最優先していかないと解法とか土台がしっかりしないと思うので。教え合うのはいいけどせめて時間を決めてやった方が良いと思います。問題で盛り上がるのは分かるけど、結局大半は雑談になってると思うから。

## 五十嵐先生が自分専用プリントを作ってくれて…。

朝は7時半には来ていました。早く来ると人が少なくて静かな空間なので、自習も集中してできました。単純に来るだけじゃ意味がないので過去問1年分解いたり予習・復習をしたり朝の時間をフル活用しました。分からない問題は先生の所へ質問しに行って、当日中に完結させるようにして、家では勉強しなかったです。質問しなかった翌日には風邪引いたのかと思ったって先生から言われるほど、よく行ってましたね。そんな先生たちがいたからこそ頑張れました。五十嵐先生が自分専用プリントを作ってくれてたんですが、他の人と同じ問題も入ってて、だからこそやり忘れると周りがどんどん進んでいっちゃうのでやらなきゃって自分を奮い立たせてました。欠席とか遅刻で授業に遅れを取るのは嫌だったので必ず毎日登校しました。後でノートを見せてもらう事は簡単に出来るけど先生の話は聞けないから、休むっていう事は考えたことなかったですね。英語は一回休むと長文1題分遅れるから危険ですよね。長文って毎日読むべきだと思うし、復習しないと定着しないから。自分で辞書調べても先生の言った事は書いてないから…。

## 今まで成績を貼り出された事が無かったので最初は嫌だったし MT がプレッシャーでした。

平野先生が入試は小問全部取って大問一つとれれば良いって話をしていたので、数学は大問一つを完答できるように意識していました。途中点しかもらえなかった時は凄い悔しかったし、数学出来る人のテストを見せてもらったらこれしか書いてないのに正解なんだ、とか、発見もありました。ただ書いているだけじゃ得点に繋がるとは限らないんですよね。小問は計算ミスを気にしないといけないし、大問だったらどれが一番重要視されているのか出題者の視点から考える必要があると思いました。最初は成績伸びなくて、クラス降格はモチベーション下がるから嫌だなって思ってたけど、夏過ぎたら安定して点数取れるようになってきて。それからはクラスの事は考えず、どれだけ自分の満足のいく所まで持っていけるのか、例えば論述ならここまで書くとか、化学ならここは得意だから落としちゃいけないとか、毎回意識しながら受験できるようになりました。今まで自分の成績を貼り出された事が無かったので最初は嫌だったし MT がプレッシャーでした。でもそういうもんだって思って、他の人がどれだけ勉強してるか分かるし、今では良かったと思ってます。

## 石井先生は、皆を受からせたい気持ちでやっているんだろうなぁって（笑）。

石井先生から見られてる感は凄いはんぱないけど、皆を受からせたい気持ちでやっているんだろうなぁって（笑）。それくらい愛情をもって接してくれてるんだと思う。だから授業であまり当てられなくなると嫌われた？って思っちゃう（笑）。全くそういう訳じゃないんですけどね。先生は自信なさそうな人を当てるって言ってて、私も自信ない時によく当てられていたのでバレてましたね。予習は多めにやってました。

## 他の人より知識を完璧にしようという気持ちで夜間に臨んでました。

生物は大森先生が論述やってて、マンツーマンの時に先生から考察のセンスが無いって言われてたのであまり身が入らなかったんですけど、でも確かにセンスも必要だけど自分の持ってる知識を活用するわけだから、考察が出来ないのではなくて覚えなきゃいけない事が足りてないって事に気付いたんです。考察にシフトチェンジはしなかったけど他の人より知識を完璧にしようという気持ちで夜間に臨んでました。数学はとにかく早い人は早い。石原さん（石原瑤子：東京女子医科合格）とか早いですよ。夜間は人の解くスピードが分かるからプレッシャーを感じて勉強できました。終わったらその分何回も見直しできるし。計算ミスせず解答スピード上げていかなきゃと思いました。英語の夜間は丸山先生だったので文法とかいつも習ってたからここってこうでしたよねって確認作業で聞けて良かったです。

## 小論と面接、皆、やっぱり真剣さが凄いですよね（笑）。

皆、やっぱり真剣さが凄いですよね（笑）。小論の授業は前からあったけど、それはまだ全然先が見えてない状態だったので。でも一次の学科受からないと次のステップに進めないからって意識は共通認識だったので、実際一次通った後はこれ逃したらもうどこにも行けないと思ってやってたし、周りも周りに負けないオーラを感じ取ったので私も負けじと頑張りました。面接対策も皆の前で当たるので良いフレーズが出ると「それもらいっ」みたいな（笑）。こういう人が受かるんだなぁ私も頑張ろうって。